

平成27年7月教育委員会会議（定例会）会議録

1 日 時 平成27年7月31日（金）午後1時30分～午後6時35分

2 場 所 所沢市役所7階 研修室

3 出席者〔委員〕大岩幹夫委員長、吉本理委員長職務代理者、中川奈緒美委員、寺本彰委員、清水国明委員、内藤隆行教育長

〔事務局〕 美甘寿規教育総務部長、山口勝彦学校教育部長、師岡林教育総務部次長、田中和貴学校教育部次長兼学校教育課長、木村立彦文化財保護担当参事兼文化財保護課長、長岡伸一教育センター担当参事兼教育センター所長、市川雅美教育総務課長、阿部美和子教育総務課主幹兼教育企画室長、末廣和久教育施設課長、浅野浩一社会教育課長、内堀耕介スポーツ振興課長、倉富恵理子生涯学習推進センター所長、岸企子所沢図書館長、結城尊弘学校教育課教育指導担当主幹兼健やか輝き支援室長、川上一人保健給食課長、佐藤佳岳学校教育課指導主事、日下宏之学校教育課指導主事、藤田恵子学校教育課指導主事、北村聡学校教育課指導主事

〔書記〕 安田幸雄教育総務課副主幹、青木穂高教育総務課主査
印の職員は、全ての審議に出席。

印の職員は、議案第12号の審議より出席。

無印の職員は、議案第12号の審議の際は退室。

〔その他〕江田宏樹所沢小学校長、山川博山口中学校長、小島浩司北野中学校長、齋藤敏男南陵中学校長、堺俊彦安松中学校長、川音孝夫向陽中学校長

所沢市立小・中学校使用教科用図書選定委員会委員として、議案第12号の議案説明のため出席。

矢島彰中富小学校長、向井茂樹和田小学校長、柴崎信明東中

学校長

所沢市立小・中学校使用教科用図書選定委員会教科用図書
調査専門員として、議案第 1 2 号途中より出席。

4 前回会議録の承認

5 会議の傍聴者 20名

6 開 会 議案第 1 1 号は、予算に関する審議のため非公開としたい旨の
発議があり、出席委員全員が賛成し、非公開で審議されることに
決定した。

また、議案第 1 2 号は、所沢市情報公開条例第 7 条第 5 号に準じ、
意思決定の中立性を確保し、教育委員として主体的に判断する環
境を整えるため、採択の議決部分について非公開としたい旨の発
議があり、出席委員全員が賛成し、採択の議決部分についてのみ
非公開とすることに決定した。

会議の進行について、議案第 1 2 号については、説明に時間を
多く要するため、議案第 1 1 号終了後、先に協議事項及び報告事
項を行い、最後に審議することとした。

7 議 題

議案第 1 0 号 所沢市スポーツ推進審議会委員の解嘱及び委嘱について

資料に則り、内堀スポーツ振興課長から以下のとおり説明がなされた。

所沢市スポーツ推進審議会条例第 2 条第 2 項第 1 号に規定されている知識経
験者として、小学校体育連盟から推薦されていた本市小学校の校長であった委員
が、平成 2 7 年 4 月 1 日付の人事異動により他市の小学校へ転出したため、その
委員を解職し、同連盟より後任の委員として推薦のあった者を委嘱するものであ
る。

質疑は、特になし。

大岩委員長の採決により、出席委員全員が賛成し、原案どおり可決された。

【傍聴者 19名退室 午後 1時35分】

議案第 11号 平成 27年度教育費予算(9月補正)について

資料に則り、以下のとおり長岡教育センター担当参事から説明がなされた。

今回の補正予算要求については、英語教育強化事業委託金として、20万円の補正予算を要求するものである。埼玉県英語教育強化事業の委託金を財源とし、英語によるコミュニケーション能力を確実に養い、グローバル化に対応した人材を強化するため、外部専門機関と連携した効果的な研修を通して、英語教員の指導力向上を図るものである。本市では、小手指中学校区の小手指中学校、小手指小学校、上新井小学校の3校に研修協力校として依頼し、外部専門機関と連携した効果的な研修を通して、英語を担当する教員の指導力向上を図るものである。

以下、質疑。

(吉本委員長職務代理者)

対象となる英語教員は、中学校の教員ですか。

(長岡教育センター担当参事)

中学校では英語科の教員ですが、小学校では外国語活動として5,6年生の担任が担当することになり、基本的には小学校では、ほぼ全ての教員が対象となります。

(吉本委員長職務代理者)

外部専門機関とは、どちらの機関になりますか。

(長岡教育センター担当参事)

東京学芸大学の2名の教授によるものです。

大岩委員長の採決により、出席委員全員が賛成し、原案どおり可決された。

【傍聴者 20名入室 午後 1時39分】

議案第 12号については、「10その他」終了後、審議を行なった。

8 協議事項

平成 27年度所沢市教育委員会の事務事業に関する点検評価報告書(素案)につい

て

資料に則り、阿部教育総務課主幹から以下のとおり説明がなされた。

先月配布した未定稿資料と学識経験者3名の意見をもとに、7月2日に2回目の意見聴取を行い、この時の意見などを反映させて、素案を作成した。

1ページは、趣旨や評価の対象、実施方法について記載している。

2ページ・3ページでは、報告書の見方について記載している。構成や各欄の内容について解説を加えたものである。昨年度、指摘された『主な実施状況の「有効性」「必要性」「方向性」の評価基準を明確にすべき』との学識経験者の意見を反映した評価基準を設定し、より客観的な基準で評価できるようにした。

4ページでは、「教育振興基本計画」に定められた施策体系図を掲載している。6ページ以降に掲載している点検評価表は、この施策体系図の主要施策ごとに作成している。

6ページから56ページまでは、全39施策について点検評価を掲載している。各「施策目標」の内容は主に平成23年の基本計画策定時のものであるが、必要に応じ、現状に合わせて変更している。

57ページから59ページまでは、「教育振興基本計画」に定められた30の指標について計画策定時の数値と目標値の間に、平成26年度の最新値、及びその前年度の実績値を並べて表示することで、目標に向けた達成状況の推移が、ひと目でわかるようにしている。

60ページから65ページまでは、「5学識経験者の意見等」として、前のページまでの教育委員会が行った点検評価に対し、学識経験者3名の意見の概要を記載している。

(1)の点検評価の対象及び実施方法について、昨年度までと比較し、「有効性」「必要性」「方向性」の評価基準の項目が明確になったとの意見や、一つ一つの事業が目標にそって実施され、取組状況が具体的に分かり易く述べられているとの意見をいただいた。

一方、正規職員数の算出方法の説明や平成23年度からの決算額の推移などがあると、より説得力があり、分かり易いとのこと意見もいただいた。

66ページから70ページまでは、6資料・教育委員会の活動状況として、

平成26年度 教育委員会 会議の開催状況と、教育費の予算・決算についての資料を掲載している。

71ページでは、「むすび」として、この度の点検評価の結果をまとめている。指標の達成状況において、目標に近づいている項目や目標値を上回った項目が多くあることから、「平成26年度に取り組んだ事務事業は一定の成果を上げ、基本計画に定めた目標の実現に受けて前進できたと考えております」としているが、目標に及ばない項目もあったことから、「さまざまな状況の変化に対応しながら各施策の優先度や緊急性を適切に判断し、他部局や関係機関との連携を図りながら、目標の実現に向けて引き続き努力して事業に取り組む必要があります。」という形で結んでいる。

(大岩委員長)

ここで、傍聴人が本日用意できた傍聴席数(20席)に達したため、所沢市教育委員会傍聴規則第3条により、これ以降の傍聴は制限させていただきます。

以下、質疑。

(中川委員)

報告書は、よくまとまっていて、とても見やすくなったと思います。一点気になったのが、小中学校と特別支援学校との連携について、何らかの活動などはありますか。

(田中学校教育部次長)

特別支援学級支援籍において、特別支援学校との交流を図っています。

(中川委員)

私の知人ですが、ずっと特別支援学校に通っていたお子さんが20歳になって、成人式に出席するかどうか考えましたが、成人式が公立小中学校の同窓会のように出席しづらく、欠席したという話を聞きました。そのようなことが、できる限りないようにしてあげたいと思います。例えば、運動会などで、特別支援学校との連携を図る活動があればよいのではないかと思います。

家庭教育学級について、保護者が重要な役割を担っていますが、PTAの活動がうまくできていない地域では、家庭教育学級がうまくいっていないという印象を受けます。「子どもの健全育成のために家庭・学校・地域の連携は不可欠であり」と記載されていますが、地域に支えられているという意識の薄い先生が、たまに

いらっしゃるようなので、そういう先生にもっとそのような意識を持っていただくにはどうすればよいか考えていきたいと思います。家庭教育学級以外で地域との連携を強化していくような取組があれば教えていただきたいと思います。

(浅野社会教育課長)

ご指摘のとおり、家庭教育学級は学校の先生方との協力が欠かせません。また、地域の方々について、PTA ではない方の参加を働きかけており、例えば民生委員が家庭教育学級に参加するなど、地域の方々に参加する仕組みが少しずつできてきていると思われまます。

また、家庭教育学級以外では、子ども会育成会の事業などでは、高齢の方など保護者ではない地域の方が参加するような取組が、少しずつ広がっています。そのような取組を通じて、地域との連携を深めていきたいと考えています。

(中川委員)

そのような取組みをされていると聞いて、嬉しく思います。私自身も、未だに中学校の家庭教育学級に在籍していますが、私のような OB が主役になってしまうような形は、あまり望ましくないと思います。地域の方にどんどん参加していただくのはよいのですが、やはり主役は今現在子どもを学校に通わせている保護者であると思います。そういう意味では、家庭教育学級は大事な取組であると思います。

(浅野社会教育課長)

ご指摘のとおり、主役となるのは学校に子どもを通わせている保護者であり、実際に家庭教育学級の運営委員長や学級委員長をしていただいているのは、そうした保護者の方々です。参加者を増やしていくという意味で、在校の方はもちろん、OB の方々に関わっていただくこともよいことであると考えております。今後とも、取組みについて研究していきたいと思います。

(吉本委員長職務代理者)

「教育機会の均等化」について、経済的困窮者に対する様々な補助があり、非常に充実していると思います。一方、新聞報道などで、普通に学校に通っていて、塾に通う経済的余裕がなく、勉強についていけなくなるような子を、市から校長 OB の方を派遣して地域の中で教室を開いて教えたり、高校生や大学生のボランティアが教えているというようなことを聞いたことがあり、今後の課題と方向性と

して、教育の機会というのは学校に通うということだけでなく、学校の教育の内容を補完してくれるという部分まで、教育委員会が関わっていくというような文言があると、よりよい内容になると思います。

(中川委員)

そのようなことは、とても重要であると思います。福祉に関する事項であると思いますが、福祉と教育は重なるようで違う部分もあり、両者の連携をとるには非常に難しいと思います。しかし、常に子どもたちを開かれた目で見ると先生を一人でも多く増やしたいという思いがあります。

(大岩委員長)

福祉の分野は市長部局の担当であり、市長部局との連携がより重要であるということであると思いますが、今後の検討課題ということでよろしくお願いします。

(寺本委員)

「道徳教育の推進」について、「取組状況」と「今後の方向性」に記載されている文章では、具体的に何をしたのか、何ができたのか、どんな事業をしたのか、あまり見えてきません。「主な事業の実施状況」についても、人権文集を作ったということだけで、道徳教育が推進されているのか疑問に思いますし、具体性に欠けると思います。もう少し、具体的なものを記載するほうがよいと思います。

同様に、「教師力の向上」について、臨時的任用教員の資質向上が以前とは違って謳われるようになりましたが、具体的にはどのようなことをしているのか、あまり見えてこないと思います。臨時的任用教員の研修会はどのような内容で、どのような資質を向上させるためのものであるのかなど、もう少し分かりやすいような文章にしていきたいと思います。

(田中学校教育部次長)

「道徳教育の推進」について、例として県で発行している家庭用「彩の国の道徳」という副読本を使いながら、家庭のことにも触れて、家族も一緒に道徳の本を読みながらお互いにそのことについて、様々な日常生活の事象について話をし、これを自らの行動にフィードバックするような授業を行っています。

また、臨時的任用教員研修については、例えば、学習における学力向上について、生活指導全般についてや服務についてなど、授業の内容や日常生活の指導にあてはめたテーマとして、研修会を行っています。

(清水委員)

自然体験という項目について記載されている部分はありますか。スポーツと自然体験とは違うものであると思いますが、自然体験についての記載があれば教えてください。

(阿部教育総務課主幹)

16ページの主要施策(2)「体験活動の推進」や、37ページの(3)「青少年教育の推進」において記載されています。「体験活動の推進」では、学校内での農業体験について、37ページでは、ジュニアリーダーや昨年の教育懇談会において議題となった子ども会育成会についても、記載されています。

(内藤教育長)

サマースクールについては、どこに記載されていますか。

(阿部教育総務課主幹)

「サマースクール」という文言は記載していませんが、「青少年教育の推進」の項目になります。

(清水委員)

登山や川遊びをしたというような、具体的な映像がイメージできるような報告があるとよいと思います。自然体験というのは、学校で学んだことを哲学的に統合する、非常に重要な要素であると思います。自然から遠ざけたり離れたりするところが、昨今のような不都合な事件が起きてしまう要因のひとつであると思います。所沢の教育の中に、自然体験が今後とも行われるとよいと思っており、具体的な自然体験活動が表現されるように、取組についても報告もしていただきたいと思います。

(阿部教育総務課主幹)

具体的な活動を記載するよう検討したいと思います。

(中川委員)

学校によっては、林間学校等で登山などをしており、報告書に記載されないのは少し残念な気持ちもあります。先ほど話題になったサマースクールは、縦のつながりが非常にうまくできていて、サマースクールを経験した子どもたちが大人になって、自分が楽しかったことを伝えたい一心で、サマースクールを運営する側になったりしています。その他、わんぱくスキーキャンプなどがあり、そのよ

うなことは、単に有効性などで抽象的に表現されるのではなく、ぜひ具体性をもって表現していただきたいと思います。

(大岩委員長)

その他、意見はございませんか。

《意見なし》

(大岩委員長)

それでは、各委員の意見等を踏まえた対応をよろしく申し上げます。

9 報告事項

所沢市教育委員会後援等名義使用許可について(教育総務課)

所沢市教育委員会の7月から10月までの主な行事予定について

(教育総務課)

平成27年所沢市議会第2回(6月)定例会一般質問答弁要旨について

(教育総務課)

「第4回ところざわ埋文まつり」について(文化財保護課)

夏季企画展「ところざわ七つの物語 ふるさと研究収蔵資料展」の開催について

(生涯学習推進センター)

質疑は特になし。

10 その他

・教育委員会8月定例会：8月21日(金)午後1時30分～

所沢市役所6階 602会議室

・教育委員会9月定例会：市議会第3回(9月)定例会の開催日程と調整中

《休憩 午後2時15分～午後2時25分》

議案第12号 平成28年度使用教科用図書の採択について

資料に則り、結城学校教育課教育指導担当主幹から以下のとおり説明がなされ

た。

小学校用教科用図書については、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条に基づき、本年度のものを平成30年度まで継続使用することになっている。中学校用教科用図書については、本年度が4年に1度の採択替えの年であり、採択をお願いするものである。

教科用図書の採択については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第6号、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条に基づき、本市教育委員会で行うこととなっている。本市における教科用図書の採択については、平成24年度から単独採択となり、昨年度から第11採択地区となった。

平成28年度使用中学校用教科用図書の採択については、所沢市立小・中学校使用教科用図書選定委員会設置規則に基づき任命された、6名の校長と学校教育部長からなる選定委員会において、本市の児童が使用するにふさわしいと考える教科用図書について選定した。

今年度採択する教科用図書は、「国語」「書写」「社会 地理的分野」「社会 歴史的分野」「社会 公民的分野」「地図」「数学」「理科」「音楽 一般」「音楽 器楽合奏」「美術」「保健体育」「技術・家庭 技術分野」「技術・家庭 家庭分野」「英語」の15種目である。種目別に審議していただき、最後に、本年度の継続使用が決まっている小学校用教科用図書とあわせての採決をお願いする。

《国語》

選定委員会委員の山川山口中学校長より、以下のとおり報告がなされた。

なお、現在使用されている教科書は、「光村図書出版」である。

5者ともに、国語科の目標を達成できるように単元・教材が配置されており、手だてやヒント、評価等が工夫されている。また、具体的で取り組みやすい言語活動や読書活動、伝統的な言語文化等についても配慮されている。各者とも、時代が求める教科書作りを行っており、所沢の「学び創造プラン」にも関連付けることのできる内容が盛り込まれている。

「東京書籍」は、国語科学習で身につけたい知識・技能のポイントが各学習教

材で明確に示され、「言葉の力」を鍛える教科書になっている。各学年とも巻頭に学習の進め方が折り込みで提示されており、生徒が見通しを持ちながら、意欲的に学習に取り組めることができる。作文の文例等が豊富に掲載され、若い先生方にも授業のしやすい教科書になっている。

「学校図書」は、単元毎に三つの読みの教材を配置し、「習得」から「活用」へと段階的に読解力が育成できる構成が特徴になっている。習得した言語能力を活用できるよう、交流や共有を軸とする活動が多く取り入れられている。文学教材に重きを置く中で、論理を鍛えていく教科書となっている。

「三省堂」は、何をどのように読めば力がつくのか図解化され、視覚的に理解を促す工夫がされている。資料編が充実しており、他の教科の学習や生活の中で役立つ知識も見やすくまとめられている。また、話し合いなどの交流、協働する活動も多く取り入れられている。現代の課題に向き合い、解決する実践力を育てる教科書となっている。

「教育出版」は、「読むこと」の教材が、幅広いジャンルの中から中学生に親しみやすく、学習指導要領の各指導事項に即したものが精選されている。小学校との接続を図る導入の単元、第3学年で、高等学校「国語総合」でよく取り上げられる作者・筆者の作品を集めた単元も設定されている。学習をスパイラルに進めながら、4月から3月に向けて、「習得」から「活用」へ学びが深まる単元展開も特徴となっている。

「光村図書出版」は、中学校3年間の系統性が図られ、生徒の発達段階に応じて、個性を引き出す教科書になっている。どの表現の教材にも「学習の見通しをもとう」のコーナーが置かれ、主体的に学習に取り組むことができる。古典教材も年度当初に配置するなどの工夫も見られる。また、説明的文章では、自然科学・社会科学・人文科学の幅広い分野から精選された教材が掲載され、文章構成・論理展開を学びながら思考を連続させ、卒業時には哲学的な文章とも対峙できる力がつくようになっている。

選定の結果、国語の教科用図書は、最も良いものに、「光村図書出版」を推薦する。その次に良いものとして、「東京書籍」・「教育出版」の二者を推薦する。

選定理由は、「光村図書出版」は現行でも使われており、生徒に会わせたい伝統のある教材を残しつつ、力のある若い作家の作品も新たに取り入れて、バラ

ンスの良い教材の配列になっていることがあげられる。

また、説明文では、所沢市の中学生に学ばせたい、論理の展開や文章構成の整った文章が系統的に掲載され、3年間の発達段階に合わせて論理性を養うことができる。実生活の中で、生きてはたらく国語の力を育成でき、これからの時代を生き抜くのに必要な力を育むことができる教科書であることから推薦した。

「東京書籍」については、教材がバランスよく配置されるとともに、学ぶ意欲が引き出される教科書作りになっており、生徒にも親しみやすく、若い先生方にも教えやすい教科書になっていることが推薦理由である。

「教育出版」は、小学校、高等学校とのなめらかな接続を図り、幅広いジャンルから多数の図書を取り上げ、読書を通して国語の基本的な能力を養い、生活を明るく豊かなものにできる教科書であることから推薦した。

以下、質疑。

(寺本委員)

「東京書籍」について、若い先生が指導しやすいということでしたが、具体的にどのようなことでしょうか。

(山川山口中学校長)

「東京書籍」の場合、学ぶための過程が書かれています。それを見ながら若い教員が、単元計画を立てやすくなっていると思います。

(内藤教育長)

言語活動が非常に重要であり、特に国語はその原点であると思いますが、古典の音読等を含めて、そのような観点からの意見を伺います。

(山川山口中学校長)

古典については、各者とも非常に工夫しており、現在に繋がる構成になっており、どの会社もよろしいのではないかと思います。

(吉本委員長職務代理者)

読書ということが、最近では非常によく言われていますが、「光村図書出版」については、ベテランの作家の作品から若手作家の作品があるということで、学校では夏目漱石や森鷗外などの古い作家の作品を扱いますが、現実的には、比較的若い作家の作品を読む機会が多いと思います。そういう意味で、若手というのは、ここ10年から20年の作家の作品なのではないでしょうか。それとも、もう少し前

の作家なのでしょうか。

(山川山口中学校長)

何をもって若手というのかは、非常に難しいことであると思いますが、私よりも年上の方の作品であっても、今の子どもたちの感覚に非常に近い作品を作っているものもあり、それを取り上げている教科書もあります。私よりも若い方の作品もあります。

(中川委員)

各社とも工夫されているようですが、「季節のしおり」のある「光村図書出版」が、季節感を大切にしているという点で特徴的であると思いました。

(山川山口中学校長)

各者とも季節感というものは大事にしていると思いますが、中川委員ご指摘のとおり、「季節のしおり」ということで時代にかかわらず、季節感のある教材がしおりのように入っているというのはよいという印象を受けました。

(寺本委員)

私は、1年生の最初のスピーチの教材を比較してみました。結果的には、「光村図書出版」が一番よいと思います。理由は3つあり、1点目は評価やスピーチを作っていく過程のチェックが生徒自身でできるということです。スピーチは苦手だが頑張りたいと思っている生徒が、スピーチができるように書かれています。

2点目は、時間の目安がスピーチでは非常に大事ですが、このような設定をきちんと書かれていることです。このような教科書は、とてもよいと思います。

3点目は、生徒のやりやすさという点で比べると、「光村図書出版」が一番自分を出さずに済むものになっています。自分という人物を使わずに、自分の周囲のものを使って、自分の観察力の特長を出せるようになっていると思います。

その対極にあるのが「学校図書」であり、同社の教科書では自分自身を出さなければならぬ内容がいきなりあり、これは非常に辛いものです。また、「東京書籍」は、やってみたさという点でどうなのかと思います。「三省堂」は、ルールが難解であると思います。「教育出版」は、工夫していると思いますが、「フリップ」をいきなり使っていて、そこに興味がいつてしまうと思います。書くにしても喋るにしても、「光村図書出版」は3年間の系統性をもって、1年よりは2年のほうが難しくできています。しかし、「教育出版」は、1年で写真イメー

ジを使った物語製作がありますが、これは1年よりは2年、3年の方がよいと思いました。表現教材に関しては、「光村図書出版」が優れていると思います。

他のことについても、「光村図書出版」の1年の68ページから77ページの詩や、2年の頭に「枕草子」を載せるなど、いろいろ変化をさせている点で評価したいと思います。しかし、「三省堂」より劣っている点を指摘すると、「三省堂」が取り上げている3年の詩は、とても新鮮であり、自作に導けるように作ってあります。

一方、「光村図書出版」は、相変わらずいつもと同じ詩を取り上げています。この詩に対して、合唱コンクールでいろいろな思い出をもっている子がいる中で、敢えて国語の授業で取り上げる必要があるのでしょうか。「光村図書出版」では、どうしても古い作家の作品を載せがちです。若い作家の作品を載せているという点では、「三省堂」の方が優れていると思います。

3年間通してということを見ると、結局「光村図書出版」がよいと思います。

(中川委員)

私も「三省堂」が結構よいと思いましたが、国語は言語学に傾けるでも単純に音読を楽しむのでもなく、文化など総合的に捉えるべきであり、そういうことを考えてバランスがよいのは、「光村図書出版」であると思います。

(清水委員)

自分の使っていた教科書を見てみると、いたずら書きがたくさんしてありましたが、教科書に自分の考えなどを書き込めるように、空白の多い教科書がよいと思いました。メールやブログでも、びっしり書き込んだものは読む気がなくなります。現在の子どもたちも、詰め込めば詰め込むほど嫌気がしてしまうと思います。興味を引き込んでいくレイアウトという点で工夫しているとよいと思います。教科書は、自分の人生を変えるような一こまや、ひとつの写真などインパクトのあるものがどこかにあると思います。

そういう観点から、「光村図書出版」がよいと思います。

(大岩委員長)

他にご意見はございますか。

《意見なし》

(大岩委員長)

それでは、国語については「光村図書出版」の「国語」を原案とすることによってよいでしょうか。

《異議なし》

(大岩委員長)

それでは、次の書写に移ります。

《書写》

選定委員会委員の山川山口中学校長より、以下のとおり報告がなされた。

なお、現在使用されている教科書は、「教育出版」である。

「東京書籍」は、3段階で学習の進め方を説明し、生徒が主体的に学習に取り組める構成になっている。また、職場訪問や防災訓練、入学願書など、生活に広がる書写活動ができるよう、題材が工夫されている。さらに「書写テストに挑戦」というページを設けるなど、国語学習への意識を高めている点も大きな特徴である。

「学校図書」は、基礎的・基本的な内容から生活の中での生かし方へと発展していく学習のプロセスを明確に示すことで、生徒が日常生活とのつながりを意識しながらワークシート形式で主体的に学習に取り組める構成になっている。また、臨書や篆刻体験を取り入れることで、高校書道へのつながりを持たせている点も大きな特徴である。

「三省堂」は、目次の中で学習の流れを明示することで、生徒が主体的に学べるよう工夫されている。また、目標に対して「考えよう・話し合おう」という問いを設定して意見交換する場面を取り入れたり、清書作品をもとに交流を図る場を設定したりするなど、国語科の「話す・聞く」の学習との関連を意識して「説明する力」の向上を図っている点も大きな特徴である。

「教育出版」は、「学習の進め方」が明確に示され、「考えよう」や「生かそう」では、自分の課題に合わせて学習に取り組めるよう工夫されている。また、楷書の隣に行書を置くことで特徴を明らかにしたり、毛筆で学習した内容を硬筆で書いて、両者の関連をさらに深めたりするなど、文字指導の面からも特徴が見られる。

「光村図書」は、教材ごとに目標と振り返りを対応させ、資料の中では、補充

教材や選択教材を取り入れて、生徒が主体的に考えながら活用できるよう工夫されている。また、毛筆と硬筆の関連性や楷書から行書への字体の変化が豊富な資料を基にわかりやすく示され、興味関心を持って活用していくことができる点は大きな特徴である。

選定の結果、書写の教科用図書は、最も良いものに「教育出版」、その次に良いものとして「光村図書出版」の2者を推薦する。推薦理由は、楷書の隣に行書載せることで、特徴を明らかにすることができるからである。

以下、質疑。

(寺本委員)

私が推薦したいのは、「東京書籍」です。行書と楷書の関連について、「東京書籍」では、同じ字を横並びで表記しています。一方、「教育出版」は行書と楷書を並べていません。

「東京書籍」を推薦する理由として、同社では、「二」「十」「口」「人」が基本であるということが示されており、それが様々なところで出てきます。また、書初めの際の名前の配列が、行書の形で示されているのは、「東京書籍」です。

ある教師に「なぜ、教育出版がそれほどまでに支持されているのか」聞いたところ、「教育出版」は余計なことをあまり書いていないからとのことでした。それは、書写が得意な生徒にとってはそのほうがよいかもしれませんが、しかし、書写が得意な先生、生徒ばかりではありません。不得意な先生は生徒にコツを聞かれた時、生徒は家でやりたい時に、教科書を頼りにしたいと思うはずで、そういう時に、「東京書籍」が一番細かいところまで書いてあります。

「教育出版」は、どちらかというとな人の書が好きで生徒には、よいかもしれませんが、書写が不得意な生徒がうまくなりたいたいという思いを汲んでいるのは、「東京書籍」であると思います。

(中川委員)

行書と楷書の比較という点では、「教育出版」にもあります。縦に並んでいる点以外は、特に不都合はないと思います。

私は、「光村図書出版」を推薦します。「教育出版」は、様々な場面を出してきて、内容が盛りだくさんすぎるような気がします。また、「枕草子」の部分では、行書と楷書が混ざっているようですが、行書なら行書で全て書いたほうがよ

いのではないかと思います。

季節感という点でも、「光村図書出版」は「季節のしおり」があります。「さくら」の文字を見たときに、「さくら」のイメージが浮かぶことは、とても大事であると思います。

(吉本委員長職務代理者)

「書写」は「国語」のジャンルに含まれると解釈しています。そうすると、「国語」にも興味を持ってもらう書道という観点でいえば、「光村図書出版」が「国語」に対してのフィードバック性が高いと思います。

(大岩委員長)

皆さんの意見をまとめると、書写については「教育出版」の「中学書写」、「光村図書出版」の「中学書写」、「東京書籍」の「新編 新しい書写」を原案とすることでよろしいでしょうか。

《異議なし》

(大岩委員長)

それでは、次の社会（地理的分野）に移ります。

《社会（地理的分野）》

選定委員会委員の齋藤南陵中学校長より、以下のとおり報告がなされた。

なお、現在使用されている教科書は、「東京書籍」である。

「東京書籍」は、1時間の授業の学習課題、単元ごとの学習テーマが設定され、地理的な考え方を身に付けるための手立てが示されている。また「確認」として、学習内容を再度考察し、自分の言葉でまとめる等、言語活動の充実が図られ、思考力・判断力・表現力等を高められるよう工夫されている。

「教育出版」は、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るために、本文の流れに即して「読み解こう」「見てみよう」で具体的に資料を読み取りながら、考察する学習活動が可能となっている。写真・地図・グラフの諸資料により、資料活用を中心とした読解力が身につくように配慮されている。

「帝国書院」は、「学習課題」が明示され、単元の終わりの「確認しよう」・「説明しよう」により学習内容をまとめる活動が可能となっている。写真資料を豊富に掲載するとともに、地域の特徴を一望できるような横長型の写真は、生徒の興

味・関心を引き出し、学習に対する意欲の向上及び学習の見通しを持たせるよう工夫されている。

「日本文教出版」は、「言語活動コーナー」や「学習の確認と活用」など、様々な地理的事象について考え、判断し、自分の言葉で表現することを促す学習活動が展開できるよう工夫されている。「地理+」や「自由研究」などでは、地理の学習を掘り下げ、学習の内容の理解を深められるようになっている。

選定の結果、最も良いものに「東京書籍」、その次に良いものとして「帝国書院」の2者を推薦する。推薦理由は、所沢市の子供たちにとって、学び創造プランにおける授業の構造化に適した内容であることや、課題解決型学習を進めるのに適しているからである。

以下、質疑。

(寺本委員)

私は、現代の目まぐるしく情勢が変化しているアジアについて、対応している教科書でなければならないと思います。台湾、朝鮮半島やベトナムなどアジアにどの程度割かれているか、イスラム社会にどの程度スポットが当たっているかという点で考えると、「東京書籍」はそれらの地域にスポットを当てていますが、他の教科書ではそれが見受けられませんでした。

また、地形図の点でいえば、「教育出版」がよい工夫をしていると思いますが、「東京書籍」もきちんと扱っていると思いますので、結論から言えば、「東京書籍」がよろしいのではないかと思います。

(清水委員)

先日、アメリカを横断して、アメリカの大きさを実感しました。日本の大きさや位置関係をアメリカと比較して、これまで誤解していたと実感しました。「東京書籍」では、日本の形をアメリカと比較しているものが載せてあり、より多くそのような比較をしている部分があります。他社にもそのような比較をしている教科書がありますか。

(齋藤南陵中学校長)

日本の位置や大きさを比較している教科書については、把握をしていますが、「地図」には、日本の緯度、経度との関係や大きさを明示している会社があり、それを併用して授業を行っています。

(中川委員)

清水委員のおっしゃるとおりであると思います。自分の実感、体感としていかに結びつけることができるかということが、とても重要であると思います。例えば、今いる身近なところからどのように繋がっているか、見通せるような教科書がよいと思います。

そういう点で、「東京書籍」は産業を一つ一つ取り上げていく中で、うまく自分が住んでいるところと結び付けていると感じられましたが、他社でそのようなところがあれば教えていただきたいと思います。

(齋藤南陵中学校長)

各者とも身近な地域の調査については、力を入れています。例えば「東京書籍」では、1年生では「世界から見た日本」から導入して、その後、「身近な地域から日本」に入っていくというような構成になっています。

(吉本委員長職務代理者)

地理は人がどこに住んでいるのかを知る上で、宗教が大きな要因になっていると思いますが、そのような観点で望ましい教科書はありますか。

(齋藤南陵中学校長)

社会科の場合、地理、歴史、公民の連携で、宗教の成り立ちから始まって現在に至る過程の中で学習していくものであり、どの会社が特に優れているということはありません。

(寺本委員)

昔は、地形図を重点的に学習した気がするのですが、どの会社も地形図に対してはあまり載せていないと思いますが、いかがでしょうか。

(齋藤南陵中学校長)

所沢市の場合、身近な所沢の地形図を使って等高線等の読み取りを行っています。小学校でも地形図の読み取りは行いますが、それを所沢版に変えて行うのは、教科書を頼るというよりは、身近な地域の調査という部分で学習することになります。地域を特定した地形図を扱うということは、どの会社もなかなか難しいのではないかと思います。

(内藤教育長)

どの教科書も興味、関心を活性化するような配慮をしていると感じますが、ユ

ニバーサルデザインの視点や、所沢市も外国籍の人も増えており、国際的な視点から使いやすさというところで、差異があるかどうか教えていただきたいと思います。

(齋藤南陵中学校長)

課題をうまく呈して、写真や図、グラフなど視覚的に表現することについては、どの会社も工夫していると思いますが、課題提示から写真等をうまく使いまとめているのが、「東京書籍」であると思います。

(清水委員)

海外において地図を見ると、日本が真ん中に表記されていませんが、そのような地図を載せている会社はありますか。

(齋藤南陵中学校長)

そのような視点での比較はしていませんが、授業の中で南北が逆になっている地図や、日本が一番端にある地図を示して、興味、関心を高めています。

(大岩委員長)

他にご意見はございますか。

《意見なし》

(大岩委員長)

それでは、皆さんの意見をまとめると、社会（地理的分野）については「東京書籍」の「新編 新しい社会 地理」を原案とすることでよろしいでしょうか。

(内藤教育長)

地図との関連が大きいとの報告がありましたので、「帝国書院」を加えてもう一度検討したいと思います。

(大岩委員長)

それでは、「東京書籍」の「新編 新しい社会 地理」に加えて、「帝国書院」の「社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土」を原案とすることでよろしいでしょうか。

《異議なし》

(大岩委員長)

それでは、次の社会（歴史的分野）に移ります。

《社会（歴史的分野）》

選定委員会委員の齋藤南陵中学校長より、以下のとおり報告がなされた。

なお、現在使用されている教科書は、「東京書籍」である。

「東京書籍」は、歴史的分野の基礎的・基本的な知識・概念や技能を確実に定着させるために、1単位時間を見開き2ページで構成し、導入資料から「学習課題」「確認」の流れで構造化し、学習内容が確実に身に付けられるよう工夫されている。

「教育出版」は、本文をもとに、写真・絵などの資料、側注解説、参照ページの関連が図られている。コラム「歴史の窓」やテーマ学習のページを設け、個に応じた学びへのアプローチができるよう配慮されている。

「清水書院」は、章扉においては、各章で扱う時代を代表する写真を配置し、これから学ぶ時代の特色を予測し、展望できるようにしている。また細かな知識の習得に止まらず、各時代を大観し、その特色を把握して自らの言葉で表現できるよう工夫されている。

「帝国書院」は、文化史を4ページで構成し、歴史の中で培われてきた日本の伝統や文化に対する教養と愛着を深められるようにしている。未来の社会をつくるために必要な知識を紹介するため等のコラムが豊富に掲載されている。

「日本文教出版」は、「導入」「本文」「時代の転換の様子」「本文」「まとめ」の流れで、「時代の特色」をとらえる各編・章の基本構成としており、各時代やその相互を大観できるよう工夫されている。

「自由社」は、適宜配置されたコラムにおいて、その文章教材によって、本文を詳説しながら、歴史に厚みと奥行きを与える独自の読み物として、幅広い知識と教養を身に付けさせる入口となるよう配慮されている。

「育鵬社」は、序章 各時代の学習の章 歴史学習のまとめを通して、日本の歴史を大観する構成となっている。また、豊富な資料と多彩なコラムで理解を深められるよう工夫されている。

「学び舎」は、世界史に関する内容の教材やその時代を生きた人々の姿を学ぶことによって、生徒が国際的視野に立ち、平和で民主的な国家及び社会を形成するための意識を高められるよう配慮している。

選定の結果、社会 歴史的分野の教科用図書は、最も良いものに「東京書籍」、

その次に良いものとして「帝国書院」の2者を推薦する。選定理由は、所沢市の
子供たちにとって、授業の構造化、主体的な学びができるという点で、良いと判
断した。

以下、質疑。

(寺本委員)

「自由社」が、「大東亜戦争」と表記していますが、これについては疑問を感
じます。おそらくこの会社は、ずっと「大東亜」で表現して、日本は悪くないと
いう立場であると思います。載せている戦後の文化の代表者にしても、考え方に
偏りがあると感じました。

「育鵬社」は、幕末の「阿部正弘」を取り上げているのはこの会社だけであり、
よく考えているとは思いますが、「自由社」ほどではないものの、多少偏りがあ
ると思います。

「学び舎」は、日本は戦争の被害者であるというスタンスで、日本が他国に対
して与えてしまった被害については、欠落していると思います。味わいのある授
業として、たまに使うのであればよいかもしれませんが、いずれにしても、今述
べた三社の教科書をスタンダードのものとして使うことは、私としてはやってほ
しくないと思います。

一方、「東京書籍」は、「ナチス」を取り上げつつも、「スターリン」も取り
上げて、「南京大虐殺と言われている」という取り上げ方をしており、公平であ
ると思います。

(中川委員)

この教科に対して、8社も候補があることに驚いています。歴史に対してはも
のを言いたい会社が多いのだと思う反面、それは少し違うのではないかと思
います。社会科というのは、歴史だけではなく、地理や公民を含めた総合的な社会
との接し方を学ぶものであると思います。

そういう意味で、「自由社」、「育鵬社」、「学び舎」については、それを凌
駕するすばらしい点があれば別ですが、特段見当たらないので除外したいと思
います。

一方、「東京書籍」は、非常にわかりやすく、バランスが取れていると思
います。先ほど、大東亜戦争という用語の話がありましたが、いわゆる一般的な社会

の見方から、あまり乖離しているものを教えてしまうのはよくないと思います。

(寺本委員)

所沢の子どもたちの中で、将来いろいろな外国に出て行く子がたくさんいると思います。外国の人からその国の教科書に則って、「日本はこういう国であろう」と突きつけられた時、「自分も日本の教科書でそれを学んだ」と言えるような書き方をされているのが、「東京書籍」です。「日本はアジアではこのようなことをしてしまった」、「イスラム教はこのような宗教です」、「日本でも人種や階級の差別があった」ということを客観的に書いて、それをどのように評価するかは、先生や生徒に任せるというスタンスであると思います。

その他の会社は、スペースの関係によるものか、方針によるものか分かりませんが、抜けている箇所が多いと思います。歴史という分野では、諸外国からの視点も考えて、一番冷静に日本の立ち位置を発見できるのは、「東京書籍」であると思います。

(吉本委員長職務代理者)

歴史というのは、それぞれの国が自分の国の価値観を持っているもので、どこにも共通するものはないと思います。「育鵬社」の教科書を読んだときに、特に不快という感じはしませんでした。例えば、「大東亜戦争」という言葉は、当時の国家が命名したものであると思います。外交などで自分の国を代表して話す時は、まず自分の国がどのように定義したかということからスタートしないと、話にならないと思います。まして、私たちが普段行き来しているものは、定義がいったい何なのかということであると思います。

そういうことは、本来基礎の歴史や政権で定義されてきたものを前提に話すということが、前提にあると思います。そういう意味では、オブラートに包みすぎている教科書よりも、刺激のある教科書もよいと思いますが、今回については、「東京書籍」でよろしいと思います。

(中川委員)

私も「育鵬社」については、世間で言われているほどは偏向した教科書ではないと感じました。しかし、自国の歴史の考え方が、世界と共通にならないと意味がないと思います。

いずれにしても、私としては「育鵬社」の教科書が、歴史や公民しかないとい

うことに疑問が残ります。

(寺本委員)

私は、二番目に選ぶとしたら、選定委員が次に推薦するとした「帝国書院」ではなく「教育出版」です。例えば、開国から明治にかけての部分や、東アジアとアイヌ民族のことや、日本領土のことについて、客観、冷静に扱われているという点では、「東京書籍」に並ぶと思います。もし、二社から選ぶというのであれば、もう一社は「教育出版」がよいと思います。

(清水委員)

教科書に書いてあったということが、自分の主張の裏付けになると思います。それゆえ、教科書はスタンダードで、基準でなければならないと思います。そういう意味での公平性を、ずっと追求していただきたいと思います。「東京書籍」のアイヌ民族についての記述で、「北海道旧土人保護法」という表記が目につきましたが、この言葉はマスコミでは「放送コード」といわれるもので、日頃から日常会話でも言ってはいけない言葉です。教科書に書いてあるからといってどこでも喋ってしまうと、批判されてしまうことも多々あります。タレントもそういうことに非常に気をつけて喋っていますが、教科書においても、そのような配慮はされているのでしょうか。

(齋藤南陵中学校長)

歴史的事実として伝えなければならないということから、放送禁止的な用語を取り上げる場合もありますが、それをどのように使うかについては、授業の中での問題であると思います。

(中川委員)

放送禁止的な用語についてですが、基本的には検定を通っている教科書なので、私としては大丈夫なのだろうと思っています。「東京書籍」は、現在使われている同社の教科書と見比べてみたところ、時代に合わせて表現を変えているようでした。もし、今後、放送禁止ワードの禁止が解除された際に、それに対応した教科書がきつとでてくるのではないかと考えています。

(清水委員)

例えば、放送禁止用語を使ったときに、教科書に載っている言葉だからよいということにはなりません。

(寺本委員)

それは、文脈上きちんと読んだ上で、使わなければならないのでしょうか。

(清水委員)

単語そのものが、禁止されています。

(寺本委員)

しかし、そういう単語がだめであったことも歴史のひとつであり、よくない部分の歴史のひとつであると思います。そういうことを客観的に書かなければならないと思います。

(清水委員)

そういうことを伏せてはいけないし、伏せる必要もないと思いますが、教科書に書いてあるからといって、公の場で全て使えるものではないということを、但し書きでもよいので載せてあるとよいと思います。

(寺本委員)

昔使っていたある会社の国語の教科書では逆に、差別的な用語があるとその一文を削除していました。私は、それは間違いであったと思っています。

(大岩委員長)

それでは皆様のご意見をまとめると、「東京書籍」の「新編 新しい社会 歴史」を原案とすることでよろしいでしょうか。

《異議なし》

(大岩委員長)

それでは、次の社会（公民的分野）に移ります。

《社会（公民的分野）》

選定委員会委員の齋藤南陵中学校長より、以下のとおり報告がなされた。

なお、現在使用されている教科書は、「東京書籍」である。

「東京書籍」は、学習課題に対して、本文と資料（写真やグラフ、新聞記事）を通して比較や読み取りを通して基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫がされている。学習を深めるための教科書の基本構成として、各章の終わりに「この章の学習を確認しよう」「やってみよう」があり、振り返りができ言語活動を多く取り入れた構成となっている。

「教育出版」は、学習内容を象徴する主題と副題をおき、学習課題を提示して、課題意識を明確にしていく構成となっている。どのページにおいても豊富な資料が盛り込まれ、生徒の興味・関心を寄せながら学習が達成できるよう構成されている。

「清水書院」では、單元ごとのねらいが明確に表されていることで生徒の学習意欲を喚起する内容になっている。また、身近な現象を調べたり学習内容に対して自分の言葉で自分の意見をまとめさせたりするような発問も掲載されている。

「帝国書院」は、全編を通して、学習課題に迫るため豊富な資料、理解を深める説明、興味・関心を引き出す「クローズアップ」「羅針盤マーク」、地理・歴史と関連づけを意識させるための「地理・歴史をふりかえる」等、様々な資料や項目を織り込ませながら取り組めるよう配慮されている。

「日本文教出版」は、「チャレンジ公民」や「明日に向かって」のコーナーで物事の考え方や話し合いの技能を学ぶことができるようになっている。それぞれの課題を通して自分の考えをまとめ、表現する場面を設け、思考力等を養う構成になっている。

「自由社」は、各章末にある「学習のまとめと発展」では、その単元の内容を理解できるよう最重要語句を提示し、基礎・基本の定着がはかれるようになっている。また最終章では「課題の探究」を設け、言語活動の充実のための学習展開となっている。

「育鵬社」は、章の始まりには「法の入り口」「政治の入り口」と主体的に学習に取り組む態度を養えるよう工夫されている。また「考えよう」では思考力、判断力、表現力等を育成し、「やってみよう」「理解を深めよう」では学習内容を深化させるように工夫されている。

選定の結果、社会 公民的分野の教科用図書は、最も良いものに「東京書籍」、その次に良いものとして「帝国書院」の2者を推薦する。選定理由は、所沢市の子供たちにとって、授業の構造化、主体的な学びができるという点で、良いと判断した。

以下、質疑。

(中川委員)

考える姿勢を養うということで、ディベートとかディスカッションなど、オー

ブンに自分の考えを話し合えるという練習が必要ではないかと思っています。そういう意味では、「東京書籍」や「帝国書院」ではそのキーワードが出てきますが、他の教科書でもそのようなことが重視されているものがあれば教えていただきたいと思います。

(齋藤南陵中学校長)

学習課題や追求する方法を多く呈しているのは、「東京書籍」や「帝国書院」であると思います。

(寺本委員)

私も、その二社でよろしいかと思いますが、結果的には「帝国書院」がよいと思います。

公民は難しいことがたくさん出てきて、生徒が分からなくなった時に、テストにおいてどのようにまとめるのかということを考えると、「東京書籍」は用語について説明できるか、どこを振り返れば説明できるかについて、分かりやすく書かれています。

一方、「帝国書院」では、例えば184ページから185ページにかけて、学習のまとめのページになっていますが、大人が読んでもとても考えさせる内容になっています。また、現代の様々な問題をより深く掘り下げていると思います。

「帝国書院」では、裁判員裁判について、「八百屋の立ち退き」を取り上げている一方で、「東京書籍」では、「コンビニ強盗致傷事件」を取り上げていますが、ディベートの際に人が傷つくことや、家族が冷たい関係になってしまうような内容は、避けたほうがよいと思います。

エネルギーの問題では、原子力についてどれほど冷静に扱っているかに着目したところ、「帝国書院」が原子力エネルギーの扱い方や課題を、様々な立場の人が一番納得できる書き方であると思います。

(内藤教育長)

所沢市も市制65年を迎えましたが、市が誕生した1950年代においては、市長選や市議会議員選挙の投票率は、90%を超えていました。それ以降、1960年代も70%を超えている中で、最近では40%を割るような投票率になっています。60歳前後の方々の投票率は高いが、若い世代の投票率が一般的には低いといわれています。そういう中で、公民の学習は非常に大事であると思いま

す。環境問題や民族紛争、平和の問題、地球温暖化の問題など現代の課題としてありますが、将来の持続可能な発展ということで、ESDの観点に立って、選挙の教育、環境教育、人権教育、租税教育など、様々な現代的なカテゴリーに対して基礎、基本を教えてくれる視点で、選考委員の意見を伺いたいと思います。

(齋藤南陵中学校長)

各者とも、人権教育や租税教育など、現代的なカテゴリーに対して、重点的に取り扱っています。教育長がおっしゃったように、公民のテーマは「持続可能な社会の実現」であり、それを意識させるような内容になっています。

その中で、「東京書籍」は現代的なカテゴリーに対して、柱を設けて、例えば「政治参加と選挙」や「財政」など、それぞれ項目を立てていると捉えています。

(中川委員)

「東京書籍」では、「マンションの駐輪場問題について考えよう」という課題を挙げて、調整の難しさを学ぶことができます。ぜひ、この調整の難しさを生徒に知ってもらいたいと思います。「コンビニ強盗」のナイフについては、驚きましたが、同じく物事を進めるには調整がいかにたいへんであるか、知ってもらいたいと思います。

(清水委員)

「東京書籍」に「公民にアクセス」というコラムがありますが、「公民にアクセス」とはどのような意味なのでしょう。

(齋藤南陵中学校長)

本文での学習をより詳しく説明したり、関連する内容を取り上げているコーナーであり、公民のその分野をもう少し細かく説明をするという意味で、「公民にアクセス」と表記しているのではないかと思います。例えば、40ページの「国民投票法と選挙権年齢」では、「選挙権を満18歳に引き下げること検討するよう求めている」といった記載があり、より掘り下げた内容になっています。

(大岩委員長)

それでは皆様のご意見をまとめると、「東京書籍」の「新編 新しい社会 公民」と「帝国書院」の「社会科 中学生の公民 より良い社会をめざして」を原案とすることでよろしいでしょうか。

《異議なし》

(大岩委員長)

それでは、次の地図に移ります。

《地図》

選定委員会委員の齋藤南陵中学校長より、以下のとおり報告がなされた。

なお、現在使用されている教科書は、「帝国書院」である。

「東京書籍」は、地理的分野の世界・日本の諸地域の学習展開に沿った活用しやすい資料が選んであり、より思考力、判断力、表現力を伸張できる構成となっている。また、基本図で全体を俯瞰し、資料やテーマ図で学習を深めていけるような構成にもなっている。

「帝国書院」は、自然、産業、歴史・文化などを調べる主題にそって地図と資料をふんだんに組み合わせてあり、考える力を伸ばす工夫がされている。また、鳥瞰図やイラストを付した資料図等を用いて、地図の醍醐味である視覚的に地域の特色をとらえるようにもなっている。

選定の結果、地図の教科用図書は、最も良いものとして「帝国書院」の1者を推薦する。選定理由は、調べる主題に沿って地図と資料をふんだんに組み合わせており、考える力を伸ばす工夫などがされているからである。また、所沢市の子供たちにとって、主体的な学びができるという点で、良いと判断した。

以下、質疑。

(中川委員)

私も先日アメリカに行きましたが、その航路は思ったより北寄りであったので、改めて驚きました。そのような体験から、ロシアとアメリカは「太平洋の端と端」ではなく、距離が近いというイメージが湧いてきます。

そのように、多角的な視点で体感と結びつけて世界を見ることができる教科書がよいと思います。

(寺本委員)

点数をつけていくと、私は「帝国書院」の方が高くなりますが、ベトナムや台湾についての記載が見当たらず、「東京書籍」ではそれにスポットを当てている点については、「東京書籍」を評価します。それ以外の点では、「帝国書院」の31ページから32ページにかけて、中国から見た日本の地図があり、普段とは

違った見方ができ、また、遣唐使が通った経路が示されており、阿倍仲麻呂がこのように通ったとイメージできる地図になっていて、発想がよいと思いました。

また、日本と同緯度の国について、「帝国書院」には書かれていますが、「東京書籍」にはありません。

両社とも京都、奈良について書かれた地図がありますが、「帝国書院」では、平城京、平安京、長岡京、藤原京の位置を示した地図があり、国語の万葉集の授業にも活用でき、美術においても、ピカソのゲルニカがどこにあるのか調べる際に、「帝国書院」にはゲルニカが索引に載っていますが、「東京書籍」には載っていません。

また、「東京書籍」では、ガラパゴス諸島がちょうどページの折り目になってしまい、レイアウトの観点からも「帝国書院」の方がよいと思います。

(清水委員)

基本的には「帝国書院」がよいと思いますが、日本の地方の拡大図が大きいのは「東京書籍」であり、その点は評価できると思います。

(大岩委員長)

それでは皆様のご意見をまとめると、「帝国書院」の「中学校社会科地図」を原案とすることよろしいでしょうか。

《異議なし》

(大岩委員長)

それでは、次の数学に移ります。

《数学》

選定委員会委員の堺安松中学校長より、以下のとおり報告がなされた。

なお、現在使用されている教科書は、「啓林館」である。

「東京書籍」は、見直し・振り返り活動や言語活動、自分の考えを書く活動が充実できるよう編集されている。関連写真やイラスト、「まちがい例」を取り上げるなど学習を補足する工夫が多彩であり、つまずきを減らすよう配慮されている。配当時数についてはゆとりを持って指導できるようになっていて、さらに、巻末資料等、個に応じて学力を伸ばす工夫も充実しており、主体的な学習が展開されるように構成されている。

このような構成になっていることは、所沢市の生徒に、主体的に学習に取り組み、思考力・表現力を育成する上で、重要であると思われる。

「大日本図書」は、1単位時間分の学習内容が見開き2ページにまとめられている。そして、数学的活動を通して行われるように工夫されている。構成が決まった形式となっているので、学習の流れをつかみやすいものとなっている。カラー印刷が効果的に使われており、「練習」問題はA・Bの2段階構成となっていて、繰り返し練習するように設定されているので、主体的な学習の展開ができるように構成されている。このような構成になっていることは、所沢市の生徒に、基礎的・基本的な知識・技能の習得に向けて、重要であると思われる。

「学校図書」は、「つながる」「身に付く」「活かす」をモットーに、課題に対して見通しを持ち、様々なつながりを意識して学習を進めることを通して学力を確実に身に付け、さらにそれを日常生活等に活用できるように編集されている。工夫された課題やポップなデザイン等、興味関心を持続させ、自ら進んで次の学習へ目を向けられるような内容となっており、主体的な学習が展開されるように構成されている。このような構成になっていることは、所沢市の生徒に、思考力・表現力をさらに向上させ、課題解決の喜びを味わうことにつながると思われる。

「教育出版」は、例題後に多くのページで「たしかめ」と「問」の2種類の問題が掲載されており基本の確認を深めるようにされている。既習事項で定着していない内容については「もどって確認」で取り上げている。また、側注の吹き出しを効果的に使用して、さらに、章末にその章で学習した内容をまとめた「学習のまとめ」を用意し自分の理解度を図る工夫がみられ、主体的な学習が展開されるよう構成されている。このような構成になっていることは、所沢市の生徒の数学への興味・関心を向上させる上で、重要であると思われる。

「啓林館」は、本冊とMathNaviブック(別冊)の構成で、生徒の実態や授業時数に応じて、幅広く学習できるような設定にされている。「ふりかえり」では、既習内容とのつながりを重視しており、基礎・基本の定着が図られている。また、数学的な思考力を養うために「身のまわりへひろげよう」や「千思万考」で、基礎的な知識・技能を活用する場面が意図的に設けられ、主体的な学習が展開されるように構成されている。このような構成になっていることは、所沢市の「学びノート」と併用することで、さらに確実な定着・習熟が図られると思われる。

「数研出版」は、基礎基本の定着、解決能力、主体的な学び、興味関心の喚起を通して、なだらかな学力を目指している。操作活動を通して考える「章のとびら」、思考力を深めるための「発展」、また「やってみよう」「考えよう」と巻末の「数学探検」では、数学的活動を促す場面が多く設けられている。「ぐんぐんのぼそうチャレンジ編」は習熟の程度に応じた指導ができるように段階的な構成になっていて、主体的な学習が展開されるよう構成されている。このような構成になっていることは、所沢市の生徒に、思考力・表現力をさらに向上させ、課題解決の喜びを味わうことにつながると思われる。

「日本文教出版」は、全ての章の直前の「次の章を学ぶ前に」や「ふりかえり」では、学習の参考になる内容やページが示してあり、基礎・基本の確実な習得を図られている。また、思考力、判断力、表現力等を段階的に高めていけるように工夫している。「数学のたんけん」では、数学が日常生活や社会とつながるような話題を豊富に取り上げ、主体的な学習が展開されるよう構成されている。このような構成になっていることは、所沢市が取り組んでいる「学び創造プラン」の学習のねらいの明確化とつながるとと思われる。

選定の結果、数学の教科用図書は、最も良いものに「啓林館」、その次に良いものとして「東京書籍」の2者を推薦する。選定理由は、所沢市の子供たちにとって、基礎的な知識・技能を活用する場面が意図的に設けられ、主体的な学習が展開されるように構成されているからである。

以下、質疑。

(中川委員)

数学では、ずっと順調に進んでいたものが、あるところにつまずいてしまい、つまずいたままにしていたために数学が苦手になってしまうことがよくあると思いますが、そのような時に振り返られるのに充実している教科書があれば、教えていただきたいと思います。

(堺安松中学校長)

振り返りということでは、全ての教科書もどこに戻ればよいか分かるような記載をしています。

(中川委員)

例えば、小学校にまで戻れるような教科書はありますか。

(堺安松中学校長)

そのような教科書はありません。

(中川委員)

所沢に限っていえば、実は数学のつまずきはそれほど心配するほどではないと思いますが、それは教科書の力が非常に大きいためであると思います。「啓林館」は理数系に強く、スペシャリスト的な感じがします。

(吉本委員長職務代理者)

数学は、テストなどでは、学年が上がるにつれて平均点が下がっていると思いますが、理解力でどのレベルの生徒をターゲットに考えて、そのための教科書を選定するという考えはありますか。たとえば、成績が伸びている生徒をさらに伸ばしていくのがよいのか、それとも必死についていこうとしている生徒にあわせるのがよいのかなどという視点で、教科書を選んだりしますか。

(堺安松中学校長)

もちろん、全ての生徒をターゲットに考えていますが、今までは、どちらかという力を引き上げる方向で考えて進めている授業が多かったのですが、今はできる子どもたちもさらに力を伸ばすという意味では、どの教科書もコラムを用意していて、興味関心を高めながら身につけていくということを掲載しています。

(清水委員)

私は数学が苦手でしたが、実生活の中で数学を活用することがあり、例えば、ログハウスを作る際に、三角比が非常に役に立ち、数学を教わってよかったと思いました。方程式など果たして日常生活に役に立つのだろうか、ずっと疑問に思っていました。そのように、どうせ役に立たないと思いながら学習すると、意欲が薄れると思います。

そういう観点で、挿絵など具体的なものがあって、こういう場面でこの数字が役立つというような内容になっているのが、「啓林館」であると思います。数字や方程式、図式だけになってしまうと、興味がなくなってしまうと思います。他社でも、「啓林館」のような取組があるのでしょうか。

(堺安松中学校長)

教科書を授業でどのように扱うかということに、教員は力を入れており、身の回りにあることをどれだけ取り入れていくかということについては、どの会社も

編成されていると思います。

(寺本委員)

確かに「啓林館」は、身の回りのことをより取り上げていて、学校行事で舞台を作るにはどうすればよいかや、2年の関数において、祖父と孫が携帯電話のプランについて話し合っているものなど、そういうものがたくさんあります。そういう点で「啓林館」は、できる子が授業の課題が終わっていても、読んでいるだけでも楽しい内容であると思います。

また、途中でつまづくということについて、例えば1年生の時に病気で学校に通えなかった生徒が、方程式の基礎の部分を振り返りたいと思ったときに、先生がいなくてもできるようになっているのは、「啓林館」であると思います。

さらに、数学が得意な生徒が周りの生徒に教えあうようなシーンが可能であると思います。3年の236ページでは、変化の割合の計算について記載されていますが、この内容は現行の教科書にも書かれていますが、以前は教科書に載ってなく、塾でしか習得できない内容であったと思います。それを、「啓林館」では先取りして入れてあり、生徒が教科書を読めば、入試にも役立つと思います。

(大岩委員長)

それでは皆様のご意見をまとめると、「啓林館」の「未来へひろがる数学」を原案とすることよろしいでしょうか。

《異議なし》

(大岩委員長)

それでは、ここで休憩とします。

《休 憩 午後4時8分～午後4時20分》

《傍聴者2名退室》

(大岩委員長)

それでは、再開します。次は、理科です。

《理科》

選定委員会委員の川音向陽中学校長より、以下のとおり報告がなされた。

なお、現在使用されている教科書は、「東京書籍」である。

「東京書籍」は、「これまでに学んだこと」で既習事項を示し、章末や単元末に問題練習ができる構成となっている。また、レポートの書き方や「基礎操作」を観察・実験前に設けてあり、基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫が見られる。観察・実験の結果を明示せず、自らの結果をもとに話合いのポイントなどが吹き出しなどで示している点については、思考力、判断力、表現力等を育成する工夫が見られる。また、資料については多彩な写真やイラストが載せてあり、世界に誇る日本の科学を載せている。

全体として、主体的な学びをするために、巻頭で、科学的な探究をしていく方法やその過程が示されており、理科の学習の進め方が分かるようになっている。また、各単元の指導時期や内容の関連性を踏まえた単元配列となっており、1年は文字サイズが大きくなっている。

「大日本図書」は、「これまでに学習したこと」などで既習事項を示し、「問い」「章末問題」「単元末問題」で、繰り返し学習できるようになっている。「基本操作」を観察・実験前に設けてあり、基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫がある。「結果から考えてみよう」では、考察するポイントが示してあり、「レポートの書き方」では、実験のまとめ方を学ぶようになっている。思考力、判断力、表現力等を育成する工夫が見られる。また、資料については、多彩な写真やイラストが載せてあり、理科と職業の関連を紹介している。

全体としては、主体的な学びをするために、巻頭で、学習の流れを示す目次が配置されており、学年全体の学習の見通しがもてるようになっている。また、観察・実験のしやすい時期を踏まえた単元配列となっている。

「学校図書」は、「これまでに学んできたこと」で既習事項を示し、「単元末問題」で、繰り返し学習できるようになっている。「基本操作」が観察・実験の近くに設けてあり、基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫が見られる。その他、「結果」と「考察」場面が設定され、レポートのまとめ方が具体例として示され、「話し合ってみよう」として、思考・表現の場を設定しており、思考力、判断力、表現力等を育成する工夫がある。また、資料については、発展的な内容を含む多彩な資料が掲載されている。また、巻末を中心に器具の基本操作方法や写真が掲載されている。

全体として、1分野の内容が前半、2分野の内容が後半に配置されている。カラー写真やイラストを多用し、学び創造プランにある学習意欲を喚起するような科学のトピックを随所で紹介している。

「教育出版」は、「思い出そう」で既習事項を示し、「要点と重要事項の整理」や章末の「基礎・基本問題」で定着を図るようになっている。観察・実験の前に「基礎技能」が設けてあり、基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫が見られる。その他、「考えよう」で、実験結果の予想や学習したことをもとに考えるようになっている。「わたしのレポート」で、まとめ方を学べるようになっており、思考力、判断力、表現力等を育成する工夫がある。また、資料については、多彩な写真やイラストが載せてある。巻末資料に基礎技能や理科で使う算数・数学の知識がまとめられている。

全体として、1分野の内容が前半、2分野の内容が後半に配置されている。また、「自由研究のしかた」を掲載し、主体的に学べるよう探究の手順がわかるようになっている。

「啓林館」は、「ふり返り」で既習事項を示し、本冊の「学習のまとめ」や別冊の「マイノート」で復習するようになっている。単元の前に器具の使い方をまとめて示しており、基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫が見られる。その他、「考えてみよう」で予想を立て、既習内容をもとに考えられるようになっている。「わたしのレポート」で、書き方の例が載せられており、思考力、判断力、表現力等を育成する工夫がある。また、資料については、多彩な写真やイラスト、指示マークが掲載されている。別冊「マイノート」は、取り外して学習するようになっており、暗記用の青色シートも添付してある。

全体として、2分野の内容が前半、1分野の内容が後半に配置されている。また、主体的な学びを支えるよう学習のつながりを意識した「ふり返り」が随所にある。

選定の結果、理科の教科用図書は、最も良いものに「東京書籍」、その次に良いものとして「大日本図書」の2者を推薦する。推薦理由は、思考力、判断力、表現力を重視した場合、考察を導くのに適しており、所沢市の子供たちにとって、主体的な学習ができると判断したからである。

以下、質疑。

(中川委員)

「東京書籍」は、社会問題とリンクさせている記述が多いという印象を受けました。他社では、あまりそのような印象を受けませんでした。

(川音向陽中学校長)

私も、中川委員同様の印象を受け、「東京書籍」はバランスよく構成されていると感じました。

(吉本委員長職務代理者)

理科も、数学同様、学年が上がるにつれてできなくなる傾向にあります。それは、学ぶことの多さや思考の難しさのためであると思います。例えば、生物では暗記的、科学では式があり、物理では数学に近いというような感覚があると思います。そのような多岐に渡る、なおかつ自分に残るような、問われたことに答えられるというように、知識として強くなれる教科書はありますか。

(川音向陽中学校長)

そうしたイメージで捉えたことはありませんが、理科の学習の場合には、問題解決的な学習の流れに沿って、生徒が興味関心を持ち、そこに疑問を持つ、そしてそれについて予想を立てながら解決していくというような活動が求められています。特に、言語活動として最終的な考察をまとめていく、あるいはそれを共有していく点では、どの教科書会社も配慮されていると思います。

(吉本委員長職務代理者)

「啓林館」は数学でもそうでしたが別冊があり、入試のことも考えてテストで点を取るという点も考慮すると、「啓林館」が良いのではないかと思います。

(中川委員)

私も「啓林館」はよいと思いました。別冊の中に、「理科で使う数学」という項目があり、数学とリンクさせて、数学への理解も深まるようになっています。他社でも、そのような数学とリンクさせているものがあれば、教えていただきたいと思います。

(川音向陽中学校長)

ベクトルの考え方を、数学の平行四辺形に結び付けているものもありますが、特に数学に結び付けているものは、他にありません。

(中川委員)

単元の並べ方について、各社バラエティに富んでいると思いますが、選定委員として望ましい並べ方の考えがあれば教えていただきたいと思います。

(川音向陽中学校長)

それぞれ、メリット、デメリットがあると思います。特に、並べ方によって生徒の受け止め方が変わったり、教員の指導が難しくなったりすることはありません。学校の中で、単元計画を立てた上での教科書の活用となりますので、望ましい並べ方というものはありません。

(内藤教育長)

学力調査などの結果では、理科が苦手な生徒が多いようですが、観察や実験を通して気づくということが理科では大事であり、予習復習をする際に疑いや発見をしていくと思いますが、そのような観点での研究はしていますか。

(川音向陽中学校長)

おっしゃるとおり、生徒の理科への興味関心が、学力に大きく左右すると思います。そういう点では、資料や写真のページを工夫しているものを感じます。課題、意識をどれだけもって解決に当たっていけるかという流れになっていることがポイントであり、そのような観点から推薦しています。

(寺本委員)

選定委員から推薦された教科書は、言われたとおりの長所があると思います。分かりやすさでいえば、計算や数字が出てくると「啓林館」、遺伝や光合成、エネルギーなど一つの項目を、系統立てて一つの単元として扱っているのは「東京書籍」、それぞれの項目で説明がしっかりされているのが「大日本図書」であると思います。

原子力の説明などは、「大日本図書」が一番よいと思いますが、理科が不得意になった生徒が、塾に頼らず振り返れるとしたら「啓林館」がよいと思います。また、授業を展開する上で、理科が得意な子もあまり得意でない子もそれなりに思ったことが言えるのは、「東京書籍」であると思います。

(清水委員)

番組を作る際に VTR 取材とスタジオトークの二つがあり、VTR で全てを語ってしまうと、スタジオが盛り上がりません。教科書においても、先生が使いやすいものは、全部語っているからよいというものではなく、予習をしたときに「こ

のことを先生に聞いてみよう」と思わせて、授業で先生が回答を出すときに、目を輝かせて先生を見るような展開になる教科書は、とても使いやすいと思います。先生がいなくてもつかえるような通信教育の教科書とは、また違うと思います。そういう観点で推薦する教科書はありますか。

(川音向陽中学校長)

授業で教員が使う教科書という観点では、問題解決的な学習の流れが整っていること、それがシンプルに示されていること、一つの単元の中でも興味関心だけを高めるだけではなく、まとめだけが強いということではなく、バランスが取れていることが、教員にとって授業で使いやすいものになります。そのような観点から、報告のとおり推薦したものです。

(清水委員)

番組などでフリップボードを使って読むときに、全てを読ませず、部分的に隠して、隠してある部分の紙をめくって関心を引き寄せています。教科書のおいても、解答をすぐに出してしまわないような工夫が、これからの時代には必要ではないかと思います。教科書を事前に読めば読むほど、学校の授業が楽しみになってくると思います。

(中川委員)

私は、清水委員がおっしゃったことに加えて、さらにもう一段階のものがほしいと思っています。今、理科離れなどと言われたりしていますが、子どもたちの興味関心ということでは、今も昔もそれほど変わっていないと思います。特に中学では「面白い」という興味関心のその先が問題であって、分析したり考察を加えたりと、一歩先にもっていかなければならないということが、理科の難しさであると思います。

「啓林館」の3年の教科書を見た後に1年の教科書を見ると落差があり、返ってそれが面白いと思いました。3年の教科書は難しいように思いましたが、1年の教科書は親しみやすいものになっている気がしました。1、2、3年の繋がりの部分で、このようなもっていき方が面白いと思いました。

(大岩委員長)

それでは皆様のご意見をまとめると、「東京書籍」の「新編 新しい科学」、「大日本図書」の「新版 理科の世界」、「啓林館」の「未来へひろがる

サイエンス」を原案とすることでよろしいでしょうか。

《異議なし》

(大岩委員長)

それでは、次の音楽(一般)に移ります。

《音楽(一般)》

選定委員会委員の小島北野中学校長より、以下のとおり報告がなされた。

なお、現在使用されている教科書は、「教育芸術社」である。

「教育出版」は、1年の教科用図書を例にすると、目次に学習指導要領に基づいた3つの柱を設定し、〔共通事項〕を窓口に音楽を捉えて各教材が示されている。写真やカットが多く、より視覚から風景等を想像させる工夫がなされている。また、吹き出しのキャラクターからのアドバイスやヒントが示され、自分の考えを直接書き込めるようになっていることで、主体的に学習に取り組むことができる工夫がなされている。

全体を通して、教材配列は、基礎的な学習から発展的な学習まで幅広く学習できる構成になっている。教材の解説も具体的かつ細かく丁寧になされている。

「教育芸術社」は、1年の教科書を例にすると、目次の裏に「音楽学習MAP」があり、学習指導要領に示された学習内容と各教材との関係や、歌唱・創作・鑑賞といった分野を横断した関連図で示されていることで、関連性をもって系統的に学習をすることができる。また、題材のねらいを達成するために上部に目標が明確に示されている。「ここが分かればGrade up!」では〔共通事項〕と関連させながら思考・判断することができ、その結果を、自分の言葉でまとめることができよう工夫されている。

全体を通して、教科書の紙面は見やすく、学習内容や活動の手順が理解できるよう、文字情報や図版等、ユニバーサルデザインに配慮した作りになっている。また、基礎・基本を繰り返し学べ、〔共通事項〕を学習の支えとしながら、系統的・発展的に学習できるよう構成されている。

選定の結果、音楽一般の教科用図書は、最も良いものに「教育芸術社」の1者を推薦する。選定理由は、基礎・基本を繰り返し学べることと、思考・判断した結果を、自分の言葉でまとめることができるよう工夫されているからである。

以下、質疑。

(中川委員)

外国では、ある店で誰かが突然歌ったときに、皆が一斉に歌える歌が必ずあります。日本でも、そのような歌があるとよいと思っており、日本のスタンダードな歌をきちんと取り上げている教科書があれば、教えてほしいと思います。

(矢島中富小学校長)

両者とも、そうした曲を載せています。

(寺本委員)

音楽は、差があまりないと思います。「ふるさと」については、両社とも、1年生向けの編曲と、2、3年生向けの編曲があり、1年生も合わせて全校合唱でできるようにしています。

著作権法については、「教育出版」はどちらかという法律解釈による説明をしており、「教育芸術社」はモラルを中心に説明をしているようです。

(吉本委員長職務代理者)

音楽が変遷していくなかで、音楽の歴史を紹介している部分があり、「教育出版」は、音楽とはあまり関係がなさそうな「印象 日の出」の絵を載せているのが面白いと思いました。この絵は、「印象派」から生まれた絵であり、人間の感覚感性が真正面からみたものだけでなく、様々なところからぼやけた感覚であり、しかし確かに記憶に残るものであると思います。

また、「教育出版」の2、3年下の59ページに、「ジョン・ケージ」が載っていて、音楽に対する幅の広さを感じ、面白いと思いました。

(中川委員)

「教育出版」は、捉えようによってはややマニアックで、個人的には面白いと思いましたが、一方で、皆で音楽をやって楽しかったという経験を積んでほしいということや、音楽の歴史が美術の歴史と結びついていることを、教養として知ってほしいということを考慮して総合的に評価すると、僅差ではありますが、「教育芸術社」がよいと思います。

(寺本委員)

生徒は、必ずしもピアノを習っているわけではなく、親がクラシックが好きで家でクラシックばかり聞かされていても、ポップスのほうが好きであるとい

うような生徒もいます。そういう子どもたちにとって、「教育出版」はジャズのみ載せていますが、「教育芸術社」はジャズとロックとボサノバを紹介しています。また、「教育芸術社」はポップスの楽譜を載せてあり、音楽が好きな子にとっては同社の方がよいのではないかと思います。

その他、リズムを使った作曲のようなページが、「教育出版」では1年生の教科書にあり、授業で扱うには少し早いのではないかと思います。これを1年生でやれば、若手の音楽の先生であれば、授業が混乱して収拾がつかなくなってしまう可能性があります。

一方「教育芸術社」では、2、3年上に載せてあり、使うとしたら同社の方が面白いと思います。

(清水委員)

歌が嫌いな人はいないと思いますが、音楽の授業を経てきらいになる人はいると思います。音楽を好きになるという意味で、どちらの教科書の方がよりよいでしょうか。

(矢島中富小学校長)

教師としての指導の仕方や、教材を通して子どもたちがどういうことを感じているか、その感じ方によって子どもたちが音楽を好きになったり、そうでなくなったりするのではないかと思います。

(清水委員)

書写にしても音楽にしても、こうでなければならぬということはないと思います。字はどんな書き方をしてもよいと思いますし、音楽は気持ちを伝える手段に過ぎないので、それを一つのルールで縛ってしまうということが、好きでない子を増やしてしまうのであると思います。好きになれば、自分から積極的に学んでいくと思いますが、最初にルールなどで縛ってしまうと、好きでなくなり、自ら調べて、自ら学ぶということがなくなると思います。そういうことを補完していくような教科書を選ぶ必要があると思います。

(中川委員)

例えば、合唱で歌を合わせて楽しいという経験にしても、楽譜が読めたほうがあつという間に疎通できます。最初に楽譜の読み方のようなルールを習うと、音楽がつまらなくなってしまうというリスクはありますが、楽譜を習

ったほうが最終的には楽しいということを伝えたいと思います。

先生の音楽に対する思いが強すぎると、返って生徒が音楽を嫌いになってしまう場合もあります。教科書も同様で、そこが難しいと感じます。

(大岩委員長)

それでは皆様のご意見をまとめると、「教育出版」の「中学音楽 音楽のおくりもの」と「教育芸術社」の「中学生の音楽」を原案とすることによろしいでしょうか。

《異議なし》

(大岩委員長)

それでは、次の音楽（器楽合奏）に移ります。

《音楽（器楽合奏）》

選定委員会委員の小島北野中学校長より、以下のとおり報告がなされた。

なお、現在使用されている教科書は、「教育芸術社」である。

「教育出版」は、ページの両端に運指が示され、運指の確認がすぐにできるように工夫されている。また和楽器について、各楽器の構造や各部の名称が写真やイラストでわかりやすく示されている。太鼓の構え方が複数の角度から写真で掲載され、生徒の興味関心や理解を深めながら音楽の良さを感じ取れるように工夫されている。

全体を通して、この教科用図書では、学習した知識・技能を生かし、個に応じた発展的な学習を進めることができる資料が豊富に示されている。

「教育芸術社」は、学習指導要領の「内容」に示された指導事項及び〔共通事項〕との関連が分かるように、「音楽学習MAP」が示されている。リコーダーの基礎的な奏法について、具体的で見やすい資料が示されている。また、箏の爪をつけた手元の写真が、手前から撮影されているので、とても生徒にとっては、わかりやすいものとなっている。その他、様々な打楽器についての解説がなされているページがある。

全体を通して、基礎・基本の確実な定着を図るための教材配列の工夫がなされ、写真や図等が豊富でユニバーサルデザインに配慮した紙面になっている。

選定の結果、音楽 器楽合奏の教科用図書は、最も良いものに「教育芸術社」

の1者を推薦する。選定理由は、基礎・基本の確実な定着を図るための教材配列の工夫やユニバーサルデザインに配慮しているからである。

以下、質疑。

(中川委員)

中学では吹奏楽がありますが、私の経験では、打楽器を専門的に指導できる先生があまりいないために、基礎基本が手薄になることがあります。「教育芸術社」は全ての楽器を均等に扱ってくれていると思います。

(寺本委員)

教科書を使って、より多くの生徒が、様々なレベルがある中で音楽が嫌いにならないようにするためには、「教育芸術社」の打楽器のページでは、全員参加が可能であると思いました。

(吉本委員長職務代理者)

能や浄瑠璃などの音の出し方は、非常に現代的であると思います。人間の感情の幅の広さを表現していると思います。日本の伝統的な和楽器を紹介しているという点で、「教育出版」の方がよろしいのではないかと思います。

(大岩委員長)

それでは皆様のご意見をまとめると、「教育出版」の「中学器楽 音楽のおくりもの」と「教育芸術社」の「中学生の器楽」を原案とすることでよろしいでしょうか。

《異議なし》

(大岩委員長)

それでは、次の美術に移ります。

《美術》

選定委員会委員の川音向陽中学校長より、以下のとおり報告がなされた。

なお、現在使用されている教科書は、「開隆堂出版」である。

「開隆堂」は、2冊で構成され、表現と鑑賞のページを明確には分けずに、二つの能力を関連させるようにしている。心に響く題材名と「学習のねらい」、「学習のふりかえり」を示し、問いかけや作者の言葉、制作過程の写真やヒントを示すことで、主体的な学習や工夫された表現に活かすことができる。知識・技能の習得

のために、各題材で、技法や知識に関する内容を掲載し、巻末に「パレットコーナー」「道具箱」「色彩ホームページ」を設けている。原寸大の作品写真や見開きページを活かし、作品のよさを味わう視点や問いかけなどをマークを使って示すことで、生徒の鑑賞の幅を広げる工夫がある。

「光村図書出版」は、2冊で構成され、題材を「表現」と「鑑賞」に分けて示している。学習をイメージしやすい目標と活動を促す問いかけをQマークで示している。思考と制作の過程や「発想や構想のヒント」をマークや囲みで示し、活動を広げ、主体的に取り組めるようにしている。知識・技能の習得のために、技法・用具の扱い方、鑑賞を深める資料を巻末の「学習を支える資料」にまとめ、各題材からのリンクを矢印マークで示している。「原寸大で鑑賞しよう」のページをはじめ、掲載写真が大きく、作品の細部まで鮮明に見ることができまる。また、問いかけの言葉を用いて、主体的な鑑賞を促している。

「日本文教出版」は、3冊で構成され、「絵画・彫刻」「デザイン・工芸」の分野ごとに「表現」「鑑賞」のページを独立させている。目標を「学びのねらい」として示し、学習の手立てとなる内容を「POINT」マークを用いて示している。また、表現の過程を写真などで示し、巻末資料を確認できるようにすることで、見通しを持った主体的な学習を促すことができる。知識・技能の習得のために、題材ごとの資料に加え、巻末に技法や色彩等の資料を掲載し、必要に応じて参照できるようマークで示している。A4変型判の大きさを生かし、鮮明で迫力のある写真を多く使っている。また、浮世絵の見開きページの紙質を変えたり「鑑賞との出会い」のページを設けたりすることで、生徒の興味・関心を高めている。

3者ともに、身に付けさせたい内容を明確にしなが、美術科の〔共通事項〕を意識した、豊富な題材を例示している。また、生き生きと活動している生徒の写真や活動を促す問いかけ、マークなどを使用することで、学習の流れがわかりやすく、所沢市「学び創造プラン」が目指す、主体的に学ぶ生徒を支える授業の展開に適切な編集となっている。さらに、生徒が創造活動の喜びを味わいながら、感性を豊かにし、基礎的な能力を伸ばしたり美術文化への理解を深めたりするために必要な工夫がされていた。

選定の結果、美術の教科用図書は、最も良いものに「日本文教出版」、その次に良いものとして「開隆堂出版」の2者を推薦する。選定理由は、学び創造プラ

ンの取組である「学習のねらい」が明示されていること、そして、表現の過程を示すなど、所沢市の子供たちにとって、見通しを持った主体的な学習を促すことができるという点で、良いと判断した。

以下、質疑。

(寺本委員)

私は「開隆堂出版」がよいと思います。自画像と情景を作る際の導き方について、「開隆堂出版」は、実際の風景を写した写真を載せて、遠近法などを意識した作品として東山魁夷の有名な「道」を載せてあり、日常的にもうまく使えるのではないかと思います。その遠近法の繋がりで、「最後の晚餐」が出てくるというのは、教科書の構成としてはよろしいのではないかと思います。自画像では、「モナ・リザ」の原寸大を載せ、若くして亡くなった画家の作品、基礎スケッチなどを載せ、有名な作品から生徒が自分で作る時に、うまく繋げて構成されているのは、「開隆堂出版」であると思います。

「開隆堂出版」は、有名な作品から、生徒が自作へうまく繋げていくという構成になっており、このような流れで美術の授業をしてほしいと思います。

(中川委員)

表現と鑑賞とを区別していないのは「開隆堂出版」だけですが、区別したほうがよいかどうか、どのように考えていますか。

(向井和田小学校長)

他の教科書については、明確に区別していますが、表現の中に、作家の作品と生徒の作品を一緒に載せています。区別しているから一体化ができないとかという点ではなく、演習の方針としてそれが見やすいかどうか、あるいは中に踏み込むことでそれを図っていくことになると思います。

(中川委員)

そうすると、区別する意味があまりないように感じますが、いかがでしょうか。

(向井和田小学校長)

鑑賞の場合は、表現と直結させる場合と、純粹に鑑賞として扱う場合と違います。例えば三社とも載せている「ゲルニカ」という作品は、そこから表現するというよりも、鑑賞してどのように考え、どのように伝え合うか、というように、純粹に鑑賞の授業として使う場合もあります。

(大岩委員長)

それでは皆様のご意見をまとめると、「日本文教出版」の「美術」と「開隆堂出版」の「美術」を原案とすることでよろしいでしょうか。

《異議なし》

(大岩委員長)

それでは、次の保健体育に移ります。

《保健体育》

選定委員会委員の江田所沢小学校長より、以下のとおり報告がなされた。

なお、現在使用されている教科書は、「東京書籍」である。

「東京書籍」は、ワイドな紙面に体育理論が保健編に続いて掲載されている。また、「今日の学習」でねらいを明確にし、学びの道筋を示し、ワークシートとしても活用できるよう工夫されている。所沢市の子どもたちにとって、「ねらいを明確」にし、「やってみよう」で調べたり考えたりすることによりに学習課題を明確にした学習に活用できる教科用図書である。

「大日本図書」は、ワイドな紙面に大きな写真・絵を効果的に配置している。また、「学習課題」を明確にし、「考えよう」で考え、「学習を活かして」で振り返りと発展的な学習を行うよう工夫されている。所沢市の子どもたちにとって、子供の言葉で振り返る学習に活用できる教科用図書である。

「大修館書店」は、短い問いかけで学習の動機づけをするとともに学習内容を明確にしている。また、本文の説明を多くして、理解を図るよう工夫がされている。所沢市の子どもたちにとって、1時間の終わりにTryを身近な問題として学習に活用できる教科用図書である。

「学研教育みらい」は、章の初めに小学校・高等学校で学習することが示されるとともに詳細な顕微鏡写真を多く掲載している。「学習の目標」を示し「ウオームアップ」で考えたり、調べたりし、エクササイズで振り返るよう工夫されている。所沢市の子どもたちにとって、子供たちの言葉で振り返りを行う学習に活用できる教科用図書である。

選定の結果、保健体育の教科用図書は、最も良いものに「東京書籍」、その次に良いものとして「学研教育みらい」の2者を推薦する。選定理由について、東

京書籍では、ねらいを明確にし、学びの道筋を示すことで、主体的な学習につながる事が挙げられる。学研教育みらいでは、詳細な顕微鏡写真を掲載するなど、子供の興味関心を高める資料が充実していること、そして子供たちの言葉で振り返りを行う学習に活用できる点が挙げられる。

以下、質疑。

(中川委員)

保健体育は入試科目ではなく、モチベーションとして楽しいものがよいと思います。取り組みやすく、わかりやすく自分の生活に結びついているような観点では、「東京書籍」がよいと思います。「東京書籍」は絵が洗練されており、レイアウトが分かりやすくなっています。

(寺本委員)

私も「東京書籍」が良いと思います。保健体育の教科書を熱心に見る子はどういう子なのか考えると、体育が得意な子はあまりこの教科書を見ず、スポーツに憧れるという生徒が見たときに「東京書籍」は、すばらしい教科書であると思います。例えば、バレーボールのチームにトレーニングアナリストなど、いろいろな人が関わっていることが示されていて、自分ならこういう形で関われるというのが出てきたり、救急救命士や助産師、栄養士なども出てきて、様々な将来をサジェストしていると思います。

また、章末のまとめがあり、保健体育のペーパーテストがあるとするれば、それに対応できるのは「東京書籍」だけであると思います。また、52ページでは、飲料水について環境問題として扱っています。スポーツ障害についても触れていたり、がんについてのトピックスがあったりして、他の会社に抜けているものがきちんと書かれています。大人が読んでもよい教科書であると思います。

(大岩委員長)

それでは皆様のご意見をまとめると、「東京書籍」の「新編 新しい保健体育」を原案とすることでよろしいでしょうか。

《異議なし》

(大岩委員長)

それでは、次の技術・家庭（技術分野）に移ります。

《技術・家庭（技術分野）》

選定委員会委員の堺安松中学校長より、以下のとおり報告がなされた。

なお、現在使用されている教科書は、「開隆堂出版」である。

「東京書籍」は、学習内容ごとに「目標」「初めの活動」「まとめの活動」を設け、この構成を繰り返し学習できるようになっている。そのため、生徒に学習の見通しを持たせ、自ら問題を見つけて解決していく学習を重視している。また、要所に「技術の天びん」マークが設けられ、日頃の授業から「技術を評価し活用する」場面が設定されている。

「教育図書」は、学習内容ごとに、日常生活と社会のつながりを意識した課題を設け、多くの写真や図、イラストにより生徒が見通しを立て、振り返る学習ができるようになっている。また、実習題材も豊富で、生徒の興味・関心を高めて、学習が進められるように構成されている。

「開隆堂」は、学習内容ごとに「学習の目標」や「学習の振り返り」が明確に示されており、学習の流れが分かりやすく、生徒自身が課題を見つけて、学び・考え、主体的に判断・行動し、問題を解決できるように構成されている。また、安全教育や環境教育、情報モラルの視点も、学習内容と作業場面に関連付けて取り上げられている。

選定の結果、「技術・家庭 技術分野」の教科用図書は、最も良いものに「東京書籍」、「開隆堂出版」の両者を推薦する。選定理由は、所沢市の子供たちにとって、学習の見通しが持て、主体的な学習ができるよう構成されているからである。

以下、質疑。

（寺本委員）

私は、「教育図書」が一番よいと思います。「開隆堂出版」と比較すると、「開隆堂出版」では、冒頭から「さまざまな技術」、「技術ってすばらしい」、「技術の進展と生活・産業」などと、タイトルが出てきます。一方、「教育図書」では、「人類は技術とともに進化してきた」、「優れた材料が優れた製品をつくる」、「製品を正確・精密につくる」などとでてきますが、どちらがよろしいと思いますか。「開隆堂」は文部科学省の項目を書いているだけでありますが、「教育図書」は何を伝えたいのか、きちんと教科書会社が研究して書かれていると思いま

す。また、木工の部分では、「教育図書」はこつが書かれていたり、良い例と悪い例が書かれています。そういうところから、技術に対するこの会社の熱い気持ちが伝わってきました。

パソコンについても、他者では、画像や多少のワード、パワーポイントについて書かれているだけですが、「教育図書」では、データを集めてエクセルに入力し、グラフを作るという関数を使ったエクセルの操作が書かれています。先生がいない時間や他の生徒が先生に作品を見てもらっている待ち時間に教科書をめくっているときに、「こういう世界があるんだ」とか、「ここは自分は失敗しそうだ」と思って説明ができるのは、「教育図書」であると思います。

(中川委員)

私は、「技術ってすばらしい」と単純に言われることに、少し疑問を感じます。「技術ってすばらしい」と捉えるのではなく、純粹にテクニックを教えると特化していただきたいと思います。

例えばそういう意味で、将来パソコンを使いたい子が、使えるレベルに達することができればよいと思います。

パソコンについての取り上げ方が対照的であると思ったのは、「東京書籍」と「開隆堂出版」です。「東京書籍」は、まずはハードの仕組みから入り、そこから情報とネットワークに繋げています。一方、「開隆堂出版」は、情報とネットワークがどのように使われているかから入って、ハードのほうへ繋げています。実利的に考えると、「開隆堂出版」のほうが入りやすいと思いました。

(大岩委員長)

選定委員としては、何かご意見はありますか。

(柴崎東中学校長)

選定委員の意見をまとめると、寺本委員のご指摘のとおり、生徒が見て楽しめるものについては「教育出版」であり、生徒が見てわかるものになっていますが、教員として技術の授業を楽しくさせたい、家に帰ってもう一度自分の家ではどうなっているのであろうと評価して、活用できるところまで考えると、「東京書籍」か「開隆堂出版」であると思います。

(清水委員)

技術的なことだけでなく、その前にあるものづくりの面白さ、楽しさのきっか

けにしてもらいたいと思います。技術書ということであれば、もっと細かいことを教えなければならないと思います。動物と人間の違いということで、刃物を使うかどうか、火をコントロールできるかということで、アウトドアの研修でやっていますが、そういう意味では、例えば車が壊れても壊れたところを交換するということが、修理のようになってしまっていると思います。ゼロから物を作るというプロセスも、物が出来上がったときの充実感を教えていかなければ、「ものづくり大国」にならないと思います。技術は非常に大事な教科であると思っています。入り口を失敗してしまうと、大人になって日常で使うものを買うようになってしまおうと思います。必要なものを自分で作るということが、技術の非常に大事なところであり、ものづくりの面白さであると思います。

それを、より効率的にスムーズにいくために技術があると思いますが、その一歩手前でものづくりが楽しいと思えるような教科書がよいと思います。そういう観点で薦められる教科書はありますか。

(柴崎東中学校長)

教科書に全てを出してしまうと、生徒が考えないと思います。ここがどうなっているのであろうと疑問に思うことで、先生に聞こうとし、それがわかったことで実践してみようとする、その繰り返しであると思います。家で壊れているものを直してみようと思って実践することで、技術が楽しくなると思います。そういう観点で推薦しました。

(寺本委員)

全部書かないほうがよいという形は、変ではないかと思います。生徒を惹きつけてより高度に、失敗しない本棚を作らないということと、身の回りのことは自分でできるということが、技術の基本であると思いますが、全部書いてあるから授業がやりにくいというのは、よく理解できません。

(清水委員)

授業の手法であると思いますが、子どもたちがどのような興味を持って聞こうということ、教科書が仕掛けてくれると、教えるほうとしてはやりやすいであろうと思います。教室運営とか子どもを一つにまとめていくという手法に、先生に教わらなくてもこれさえ見ておけばということではなく、先生の発言にももう少し重きを置いたような構成や運営の仕方があればよいと思います。敢えて書かな

いということではありませんが、教科書で全てが完結するとは思いませんので、生徒があって、先生があって、質問があって、発言があって教室が運営されるものと思います。教科書ばかりを完璧に仕上げていくことに重きを置いてしまうと、魅力がなくなってしまう気がします。

(中川委員)

例えば完全とは言えなくても工夫の余地がある教科書を使った場合、教えるスキルに長けている先生は逆に素晴らしい指導ができる場合があります。しかし、そうではない先生は、逆に良くない結果になります。

一方、完成度を高めた教科書を用いれば、教師の技量にはあまり左右されません。あまり完成度を高めてしまうと、先生の個性を活かせない、しかし完成度を低くすると技量の差が出てしまう、というジレンマがあります。

そういう意味で、伝達というのがとても大事な教育の作業であり、人から教わることに意義があると思います。わざと全部を伝えないでおくというのもひとつであると思います。教科書だけで、全ての興味関心を満たさなくてもよいと思います。

(寺本委員)

「教育図書」の教科書が、全てを満たしているとは思っていません。基本的なことをつまづきそうなところを、きちんとカバーしてくれるのが、「教育図書」であり、遠い目標をこの会社の人考えた言葉で示していると思います。それは、技術科の先生が思っていることと、一致していると思います。その間で伝えるとか、伏せておいて考えるということとはできると思います。

(清水委員)

興味がたくさんわいてくるような教科書がよいと思います。

(寺本委員)

それであれば、「教育図書」であると思います。

なお、「東京書籍」は、職業の解説が多く出てきます。この職業はこの技術に関連するということが書かれている点で、「東京書籍」にも一定の評価はあると思います。

(大岩委員長)

それでは皆様のご意見をまとめると、「東京書籍」の「新編 新しい技術・

家庭 技術分野」、「教育図書」の「新技術・家庭 技術分野」、「開隆堂出版」の「技術・家庭（技術分野）」を原案とすることによろしいでしょうか。

《異議なし》

（大岩委員長）

それでは、次の技術・家庭（家庭分野）に移ります。

《技術・家庭（家庭分野）》

選定委員会委員の堺安松中学校長より、以下のとおり報告がなされた。

なお、現在使用されている教科書は、「開隆堂出版」である。

「東京書籍」は、学習内容ごとに「目標」「初めの活動」「まとめの活動」を設け、生徒自身が学習に見通しを持ち、学習状況を確認しながら学べるように構成されている。また、豊富な実習題材の中に、応用できる例（材料例や手順例、盛り付け例など）を設け、より実践的な活動を行う工夫がなされている。

「教育図書」は、学習内容ごとに「目標」「キーワードチェック」「学習のふり返し」を設け、自学自習できるように構成されている。また、写真や図、イラストが豊富に掲載され、実習題材ページが充実しており、製作経験の少ない生徒でも主体的に授業に取り組みやすい工夫がなされている。

「開隆堂出版」は、学習内容ごとに「目標」「学習課題」「ふり返し」を設け、学習の流れがわかりやすく、生徒自身が学習状況を自己評価し、学習内容が定着できるように構成されている。また、難易度の異なる実習・製作題材が掲載され、生徒の実態・興味・関心に応じて対応できるような工夫がされている。

選定の結果、「技術・家庭 家庭分野」の教科用図書は、最も良いものに「開隆堂出版」、その次に良いものとして「東京書籍」の2者を推薦する。選定理由は、学習の流れがわかりやすく、所沢市の子供たちにとって、主体的な学習が進められるようになっているからである。また、生徒の実態・興味・関心に応じて対応できるような工夫がなされているからである。

以下、質疑。

（寺本委員）

郷土料理に関して、「教育図書」だけは、料理の名前とイラストだけでなく、どんな材料を使っているかについても書かれています。また、雑煮の地方別の違

いが載っているのは、「教育図書」だけです。さきほどの技術と同様に、このように詳しく書いてあるからといって、授業がやりにくくなるのでしょうか。

衣服の入手について、「チェスト」については「東京書籍」に記載がなく、「開隆堂出版」と「教育図書」には記載がありますが、「教育図書」のほうが工夫していると思います。おにぎりの握り方をイラストを使って表現しているのは、「教育図書」だけです。魚料理について詳しく書いてあるのは、「教育図書」です。

こうしたことが、授業の組み立ての邪魔になるのでしょうか。私は、邪魔しないと思います。

(中川委員)

私は決して、教科書の完成度を上げると、授業が劣るものになると言っているわけではありません。むしろ、ある一定以上のレベルが保証されると思います。しかし、子どもたちがもっと知りたいという意欲に結びつくかといえ、それはまた別の問題であると思います。例えば、郷土料理も「教育出版」では、それぞれの材料が分かる反面、写真を見てこれは何だろうと疑問に思うこともないであろうと思います。

家庭も技術同様、テクニック重視でよいのではないかと思います。知識よりも実践でよいと思います。入試科目でもないのに、できるだけ子どもたちを惹きつけてあげたいと思います。最初にたくさんの知識を羅列することで、興味が離れてしまう子もいると思います。

(吉本委員長職務代理者)

私が関心をもったのは、購入方法、支払い方法の項目であり、クレジットカードについて、単に後払いと書いている教科書もあれば、借金をしていることと同じで、支払いが滞れば信用が損なわれ、カードが利用できなくなると書いている教科書もあります。今、カードを持ったことによって、知らないうちに滞納してしまい、そのことが5年程度履歴に残り、カード会社からの信用を無くしてしまいます。そういうことを教科書にきちんと書いてあるは、「教育図書」であると思いました。

(大岩委員長)

選定委員としては、何かご意見はありますか。

(柴崎東中学校長)

郷土料理については、選定委員の中でも協議しました。日本では正月や盆が、地域によって月が違ってみたり、郷土料理が違ってみたりします。いろいろなところから子どもたちが集まってきましたので、そういうことを自分で実際に戻ったときに調べてみるとか、いろいろなことをする中で発見させることによって、それが発展するのではないかと思います。そのような意見が、出されていました。

また、ネットワーク関係で、スマートフォンについて安全性よりも、危険性を謳うほうが重要になっているということでは、「開隆堂出版」がリンクということで、技術分野など様々なことに繋がっている点で推薦しました。

(大岩委員長)

それでは皆様のご意見をまとめると、「教育図書」の「新技術・家庭 家庭分野」、「開隆堂出版」の「技術・家庭(家庭分野)」を原案とすることによってよいでしょうか。

《異議なし》

(大岩委員長)

それでは、次の英語に移ります。

《英語》

選定委員会委員の小島北野中学校長より、以下のとおり報告がなされた。

なお、現在使用されている教科書は、「開隆堂出版」である。

「東京書籍」は、構成が「文法と語彙」、「コミュニケーション活動」、「自己表現活動」の3部構成で、4技能を総合的に育成できる学習の流れになっている。学習のまとめとして「書く」課題で終えられ、学習の成果をノート指導で確認できる。練習問題は既習語で作成され、活動を膨らませるのに必要な語句や表現が補充されている。「電話の会話」と「道案内」が3学年とも載せられており、発達段階に合わせ、ゆるやかに難易度があげられている。「辞書の使い方」「文の読み方」「意見の述べ方」などが示されており、自学自習に役立つポイントも解説されている。読みの指導においては、読後に感想や賛否・理由を示せるようになっており、内容をとらえるためのヒントも用意されている。

「開隆堂出版」は、各セクションが、Basic Dialog、Listen、Speak、Try、本文、そしてWriteで構成され、4技能の基礎が習得できるようになっている。各

Program のまとめとして、発展的な言語活動を行う構成になっている。新出語句、辞書学習などが主体的に取り組めるように工夫されている。実際的な英語の使用場面を想定し、発達段階に応じたコミュニケーション能力を高められるよう工夫されたページがある。切り離して使用できるアクションカードやペア活動のための Q & A がゲーム形式で掲載されている。協働学習をねらいとした構成が多くみられる。

「学校図書」は、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得し、繰り返し使用して定着させる工夫をしている。習得したことを活用し、書いたり話したりする表現活動を設定している。学習の見通しや振り返りのために、Chapter の扉に学ぶ内容とゴールを明示している。単語を何度も使用する活動や場面に応じた表現を設定し、コミュニケーションを円滑に進めるように工夫している。資料には、話題に応じた語彙や、異文化理解、自己表現に繋がるものがある。自分自身と他者、我が国と他国の文化、環境問題や世界遺産など、言葉を通して自分を見つめ、世界を広げることをめざしたものとなっている。

「三省堂」は、導入部の「とびら」で写真や既習表現を多く取り入れ、その課で学ぶことへの準備や振り返り学習に活用されている。単元の展開では、4 技能を習得するためのコツを「Tips」として説明し、「読むこと」「書くこと」の発信的なコミュニケーションをとれる構成となっている。「For Self-study」のコーナーで、自主学習のヒントを示している。資料としては、「いろいろな単語」、「会話表現」、「絵で分かる文法のしくみ」、をリスト化して付けている。学習の見通しを立てさせ、英語を身につけるためのプロセスを段階的に構成し、自分の考えや文化を発信できる資質を培うことができる。

「教育出版」は、各 Lesson を 3 段階で構成し、それぞれに到達目標が設定され、Activity によって置き換え練習ができ、基礎基本の定着を図っている。Project では、既習内容を異なる文脈や場面で使い、4 技能を統合的・総合的に運用できる。「辞書について学ぼう!」や、「Can-Do 自己チェックリスト」により、自己課題に沿った学習が進められる。別冊「Essentials」があり、復習や主体的に学習できる工夫がされている。言語材料の定着を目指した繰り返し学習の練習が豊富である。

「光村図書」は、Unit ごとに目標を設定し、4 技能をバランス良く習得ができ

る。その後に、定着を確認する活動が用意されている。Unit の最後の質問により、内容をより深めることができる。また、読み物教材には、内容を振り返り、まとめる活動が用意されている。各学年に数回ずつある Go for it! という活動は、それまで学んだ 4 技能を統合的に用いて自分の考えを発信する場となっている。資料には、会話表現集や、英文の作り方など、生徒が主体的に学ぶための情報が掲載されている。Unit ごとに 4 技能を系統立てて習得させながら、その振り返りとしてさらに活用するなど、スパイラルな学習を意図した構成となっている。

選定の結果、英語の教科用図書は、最もの良いものに「開隆堂出版」、その次に良いものとして「学校図書」「東京書籍」の 3 者を推薦する。選定理由について、「開隆堂出版」はセクションごとに 4 技能の基礎が習得できることや協同学習をねらいとした構成が多く見られ、3 年間を見通したプログラムが設定されているからである。「学校図書」は一般動詞からレッスンがスタートしていて、「東京書籍」は、4 技能を総合的に育成できる学習の流れになっているからである。

以下、質疑。

(寺本委員)

私は、「学校図書」の「TOTAL ENGLISH」がよいと思います。一般動詞から入り、今年から 3 学期制になり、7 月には通知表が出るということで、その前に必ずみんなの前でスピーチするのか、それとも AET にチェックしてもらうのかで差はあると思いますが、自分で考えたスピーチのシーンが出てくるとと思います。Be 動詞から入ると、サッカーのことを言うときに、「I'm a soccer fun」と言わなければなりません。「TOTAL ENGLISH」では、「I like soccer」となります。生徒が自分で考えた内容を話すと言う点では、「TOTAL ENGLISH」は一般動詞を選んだという点でよいと思います。

また、一般動詞の肯定文と疑問文について、どちらも動詞などを色分けして表現していますが、「TOTAL ENGLISH」では日本語にも色分けしています。このような工夫があるとないのでは、かなり違うと思います。先ほどと同じことになりますが、これがあると授業がやりにくくなるのでしょうか。

英語は、1 年生のときにつまずくと、その先ずっとつまらなくなってしまう。そういう子が振り返るときに、自分で教科書をたどって遅れを取り戻すにはこの教科書がよいと思います。

2年の「to + 不定詞」の説明について、「開隆堂出版」の「SUNSHINE ENGLISH COURSE」では、名詞的用法、副詞的用法、形容詞的用法という囲みがあります。私の教え子が教育実習に行った際に、担当の先生から、「 的用法という言葉は、かえって分かりにくくなるので、使わないでほしい」と言われたそうです。伝統的にこの用語を使って教えるのに慣れている先生からの支持が、全国的に多いから推薦されるのかもしれませんが。

一方、「TOTAL ENGLISH」では、名詞的用法という言葉は無い代わりに、「to play tennis」にするのか、「playing tennis」にするかは、その前の動詞が何になるかによって決まるという、一番参考になることが書かれています。これがあったほうが、後で振り返るときにとてもよいアドバイスになると思います。

「to + 不定詞」の用法上の区別が、日本語でこのように言いたいときにはどうすればよいかということが書かれているので、生徒が英語で話したいというスタンスを貫いていると思います。自分から英語を話したいと思う子が、所沢からたくさん出てほしいと思っており、そうするとこの教科書がよいと思います。

(中川委員)

私も、「TOTAL ENGLISH」に興味を引かれました。文法の教え方など分かりやすいと思います。ただ、3年になると長文が多いような気がしました。今まで文法の積み重ねがあるので、この長文ができるであろうということなのかもしれませんが、この落差に驚きました。

また、喋るということになると、会話があまり重視されていないような気がしました。もちろん、長文をもとに会話をすることもできますが、いろいろな場面を設定してあげるのも、教科書の重要な役目であると思います。そういう意味で、「TOTAL ENGLISH」の3年は、場面設定がやや貧弱ではないかと思います。

(内藤教育長)

歴史などの教科書では、外国人の方が監修に入ることはありませんが、英語については、入っていると思います。そういう意味では、先生の教えやすさ、子どもたちの学びやすさというのは、大事であると思います。

一方で、喋る英語という観点から言えば、AETの方々が教育センターから配置されていますが、そういう英語圏で育ってきた人にとっては、これらの教科書がどうなのか、意見を聞いているのでしょうか。

(小島北野中学校長)

過去に AET から聞いたところによると、現在使用している「SUNSHINE ENGLISH COURSE」は、良くなっているということでした。

(中川委員)

音声教材の聞き比べはしていますか。

(小島北野中学校長)

聞き比べはしていませんが、どれもネイティブの方が話しているので、大きな違いはないと思います。

(中川委員)

本当は、それもしたほうがよいと思います。アメリカなどに行って困るのは、何を言っているのか聞き取れず、質問がわからないことです。コミュニケーションは聞き取る練習になると思います。聞き取ろうとすることで、勘が養われると思います。対話を重視していると言う点で、選定委員が推奨するものはありますか。

(小島北野中学校長)

聞く、話すの部分について、一番材料を多く取り入れているのは、「開隆堂出版」の「SUNSHINE ENGLISH COURSE」であると思います。

1年の最初に出てくる動詞については、選定委員でも話題に出ていましたが、自己紹介をするには「be 動詞」を使うことや、「be 動詞」の後、すぐに一般動詞を扱っているのが、それほど大きな差にはならないと思います。

また、「SUNSHINE ENGLISH COURSE」では、「My Project」というものがあり、プログラムを3つ終えたところで、1回出てきます。それが、3年間見通した形で、それまで身につけた能力を活かして、様々な言語活動をしていくというものになっています。

(清水委員)

英語は学ぶものではなく、慣れるものであると思います。勉強しようと思って英語を始めると、文法的にはできるかもしれませんが、喋れなかったり、聞き取れなかったりすると思います。そういう意味で、全部書いてあるということ以上に、興味を持つ教科書構成というものに重きを置いたほうが良いと思います。絵本のような感じで、それに何が書いてあるのかということや、これを知りたいと

か、自分で辞書を引いて調べたいというようなことを、教科書できっかけにすればよいと思います。

また、もし、先生用の解説のある教科書があれば、皆が同じものを推理小説の犯人まで先に書いてあるようなものをやるよりも、読み解いていく面白さがあるとよいと思います。

子どもの興味を持たせるということ、先生が学級運営しやすいという観点での教科書選びをしたいと思います。子どもが興味をもつような挿絵や写真やストーリーというものが、どの教科書に一番あるかということを見えています。

(小島北野中学校長)

全体のストーリー性という部分については、各者気をつかっており、最初に登場人物を紹介するなどしています。

(中川委員)

ある程度まで行けば、英語で先生が質問してもよいと思います。英語で質問すれば、子どもたちは必死に身につけようとすると思います。しかし、どの教科書を見ても、質問自体を英語で書いていません。

(小島北野中学校長)

授業では、ALL ENGLISH でやっている先生もいます。

(中川委員)

そうであれば、それをサポートするような教科書がよいと思います。先生自身が、英語を使って教えられるように是非なってほしいと思います。中学1年からそれはできると思います。

(大岩委員長)

それでは皆様のご意見をまとめると、「開隆堂出版」の「SUNSHINE ENGLISH COURSE」、「学校図書」の「TOTAL ENGLISH」を原案とすることよろしいでしょうか。

《異議なし》

(大岩委員長)

それでは、以上で全ての種目の審議が終わりました。

《傍聴者18名及び関係者以外退室 午後6時15分》

《採決》

それではこれから、種目ごとの教科用図書の採決を行ないます。採決については、賛成が出席委員の過半数を超えたものに決することになります。原案が3者の場合には、3対2対1となる場合もありますが、その場合には、3と2となった2者でもう一度採決を行なうということによろしいでしょうか。

《異議なし》

(大岩委員長)

それでは、採決を始めます。

《国語》原案：「光村図書出版」「国語」

全会一致で、原案どおり採択。

《書写》原案：「東京書籍」「新編 新しい書写」

「教育出版」「中学書写」

「光村図書出版」「中学書写」

「東京書籍」賛成1名、「教育出版」賛成2名、「光村図書出版」賛成3名。

「教育出版」と「光村図書出版」で再選、「教育出版」2名、「光村図書出版」4名で、多数決により「光村図書出版」「中学書写」を採択。

《社会（地理的分野）》原案：「東京書籍」「新編 新しい社会 地理」

「帝国書院」「社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土」

「東京書籍」賛成4名、「帝国書院」賛成2名で、多数決により「東京書籍」「新編 新しい社会 地理」を採択。

《社会（歴史的分野）》原案：「東京書籍」「新編 新しい社会 歴史」

全会一致で、原案どおり採択。

《社会（公民的分野）》原案：「東京書籍」「新編 新しい社会 公民」

「帝国書院」「社会科 中学生の公民 より良い社会をめざして」

「東京書籍」賛成 5 名、「帝国書院」賛成 1 名で、多数決により「東京書籍」「新編 新しい社会 公民」を採択。

《地図》原案：「帝国書院」「中学校社会科地図」
全会一致で、原案どおり採択。

《数学》原案：「啓林館」「未来へひろがる数学」
全会一致で、原案どおり採択。

《理科》原案：「東京書籍」「新編 新しい科学」
「大日本図書」「新版 理科の世界」
「啓林館」「未来へひろがるサイエンス」
「東京書籍」賛成 2 名、「大日本図書」賛成 0 名、「啓林館」賛成 4 名で、多数決により「啓林館」「未来へひろがるサイエンス」を採択。

《音楽（一般）》原案：「教育出版」「中学音楽 音楽のおくりもの」
「教育芸術社」「中学生の音楽」
「教育出版」賛成 1 名、「教育芸術社」賛成 5 名で、多数決により「教育芸術社」「中学生の音楽」を採択。

《音楽（器楽）》原案：「教育出版」「中学音楽 音楽のおくりもの」
「教育芸術社」「中学生の音楽」
「教育出版」賛成 1 名、「教育芸術社」賛成 5 名で、多数決により「教育芸術社」「中学生の音楽」を採択。

《美術》原案：「開隆堂出版」「美術」
「日本文教出版」「美術」
「開隆堂出版」賛成 1 名、「日本文教出版」賛成 5 名で、多数決により「日

本文教出版」「美術」を採択。

《保健体育》原案：「東京書籍」「新編 新しい保健体育」

全会一致で、原案どおり採択。

《技術・家庭（技術分野）》原案：「東京書籍」「新編 新しい技術・家庭 技術分野」

「教育図書」「新技術・家庭 技術分野」

「開隆堂出版」「技術・家庭（技術分野）」

「東京書籍」賛成 0 名、「教育図書」賛成 1 名、「開隆堂出版」賛成 5 名で、多数決により「開隆堂出版」「技術・家庭（技術分野）」を採択。

《技術・家庭（家庭分野）》原案：「東京書籍」「新編 新しい技術・家庭 家庭分野」

「教育図書」「新技術・家庭 家庭分野」

「開隆堂出版」「技術・家庭（家庭分野）」

「東京書籍」賛成 0 名、「教育図書」賛成 1 名、「開隆堂出版」賛成 5 名で、多数決により「開隆堂出版」「技術・家庭（家庭分野）」を採択。

《英語》原案：「開隆堂出版」「SUNSHINE ENGLISH COURSE」

「学校図書」「TOTAL ENGLISH」

「開隆堂出版」賛成 4 名、「学校図書」賛成 2 名で、多数決により「開隆堂出版」「SUNSHINE ENGLISH COURSE」を採択。

前述のとおり採択された平成 28 年度使用中学校用教科用図書と合わせて、来年度について本年度のものの継続使用が決まっている小学校用教科用図書について、大岩委員長の採決により、出席委員全員が賛成し可決された。

《傍聴者 10 名及び関係者以外入室 午後 6 時 25 分》

田中学校教育部次長より、平成28年度使用小学校用教科用図書について、前述のとおり採択された旨の報告がなされた。また、平成28年度使用中学校用教科用図書について、今年度のものを継続使用するとの報告がなされた。

11 閉 会 午後6時35分